愛國婦人會機關

愛國婦人會の目的は軍人の遺族及癈兵を救護するにあり

愛國婦人

每月五日二十日發行
一部金參錢 一ケ月金六錢 半年分金參拾六錢 全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
發行所 東京麹町區（牛ケ淵公園）愛國婦人發行所
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄

社說

普通の勇氣

矢玉の裡を潜りて、敵陣に突貫し、火中に飛び込みて小兒を救ひ、渦巻く水中に溺者を引き上ぐる如きは、大なる勇氣を要するものにて、普通の者の出來る所にあらず、もし斯る事を行へる者あらば、勳章が貰へ、賞與が貰へて新聞にのり、大評判となりて、如何にも珍らしく、感心なりとて持て囃さるゝは、誠に當然のことなり、然れども勇氣とは身體を犧牲とする命がけの仕事に限らず、これらは非常の勇氣といふものにて、此外日常每日何度となく入り用なる普通の勇氣といふものあり、前者を身體的勇氣といはゞこれは道德的勇氣といはゞ云ふべし、命に別條なければなり、されど勇氣としては何れが上下といふこと能はず、勇氣とは皆人の爲すを欲して、爲しかぬることを進んで爲すの元氣を指すなり、戰爭、火事、洪水の如きものは滅多にあるものにあらず、人命救助の如きは一生一度も出喰はさぬこともありて、非常の勇氣は持ちたりとも出す場合も甚だ稀れなるものなり、之に反して普通の勇氣は年中入り通しにて、これなくんば、人々の品格も上らず、仕事も捗取らず、家庭、社會、國家は繁盛するものにあらず、持ちたきものはその普通の勇氣なり。

然らば普通の勇氣とは何ぞや、理屈よりも例にて說明せんに、此陽氣の空に春眠曉を覺へずとて、仕たい朝寢を我慢して早起きするは、勇氣なくては出來るものにあらず、人の着て居る花見の着物を見ても、まあ〳〵と我慢して、何時ものにて濟ますは、勇氣を要するよならずや、其他買いたい物も買はず、見たい物を見ず、すべて人前を張るために、分以上が仕たくなるを堪へて、實際あるだけに仕てゆくは、皆それ〳〵に勇氣を要するものにて、これが即ち普通の勇氣なり。

無形の例を擧ぐれば、噓を言ふと都合が好い時にも、正直を言ひ、機嫌の惡くなるを知りながら、夫に苦言を呈するが如きは、臆病者には出來ぬことなり、一番槍の突進よりも、君を直諫するは難しとは、さる名君の名言なり、失望に落膽せず、悲みに沮喪せざるは、何れも大なる勇氣を要す、甘言誘惑に抵抗するほどの勇氣なくして、一身の破滅、一家の沒落を來せる例は、日々の新聞にも見る所なり、取るに足らぬ人の惡口を、氣色を變へて憤り出して、眞目を下ぐるも、堪へるだけの勇氣なければなう、其他日常の生活に於て勇氣を要する場合を擧げ來れば、殆んど際限なかるべし、此等のあゆる場合に勇氣あるとなきとにて、如何に大なる相違を結果に來すかを思はゞ、貴ぶべきはこの普通の勇氣にあらずや。

臆病は勇氣の反對なり、臆病のことを英語にては、カワードといふ、カワードは羅甸語のカウダより來り、カウダは「尾」を意味す、即ち臆病とは尾を見せることなり、人に尾なければ、臆病は人になく、獸類にのみあるべき筈なれども、實際は人間にて此尾を見せるもの、多きこそ嘆かはしけれ暗夜に墓場に行く能はず、銃火に退却するのみが臆病にあらず、普通の勇氣なきは即ち臆病なり。臆病なる者は機會を逸し仕事捗取らず、己れを誤まり國家社會を誤まるものなり、臆病は火の消へたるが如く風船玉の潰れたるが如し、何にも取り柄のなきものなり。

然らば如何にせば臆病を去て勇氣の人となるやと云ふに、そは固より種々の場合に於て實地の鍛錬を積むを要すれども、一言に言はば正義を行ふにあり、普通の人ならば、普通の場合に正否の分らぬ氣遣ひなし、即ち其正とする所を斷行すればそれて充分なり、希伯來の諺にも正なるものは獅子の如く大膽なりとあり、心中に申し譯しながら言動するに至て人は勇氣を失ふものなり、今や戰爭既に畢りて非常の勇氣を現はす場合少くなり、最も多く普通の勇氣を要するの時とはなれり、小は一身一家より大は國家社會に至るまで、其の運命を支配するものはこの普通の勇氣なることを思ひ、男女を問はず漸次にも未練の振舞あるべからず。

春と學校

花を見る前に、學校は一年の片をつけて卒業する者は卒業し、入學する者は入學して、今が年中多事の時なり、進級して書物を買ふて貰ふも嬉しく、卒業入學はなほ嬉し、中には風雅でもなく洒落でもなく落第の花見といふ歌の題にも見當らざるとをする者もあれど、春は流石に春にて、櫻は斯る人をも見捨てざるなり、女子の卒業證書を貰ふといふこと、明治の御代なればこそ、昔はなきことなり。

簞笥何棹、吊臺何荷が嫁入の錦なりしこと此間までなるに、今は卒業證書一枚がなくて叶はぬ持參物となりて、娘有てる者は、皆學校に通はすなり、その卒業證書を得て、娘よりも先づ親の喜びて、櫻の一層めでたく眺めらるゝ者の年々多くなり行くは、女子教育といふもの、御蔭なりと知らば、敎師ならぬ一般の婦人も今少しく之に盡さゞるべからず。地方の少女が新聞雜誌に釣られて、何でも上京して修業せずばと、進まぬ親を樣々に說き賴みて、花の咲く頃には、都に見慣れぬ女學生の多くつどへるを見る、誠に結構なることなれども、京の櫻も田舍の櫻と同じく、高等女學校に何處も變りなけれど、それを濟ますまでは上京せざるが賢き仕方なり。京は花の名所なれど、風に誘はれて、あらぬ方に散り行く樣は眞似るべからず、こゝにも誘惑に打勝ちて一心に勉强するといふ勇氣は必要なり。花ぞ今宵の主なるらんは風雅なれど、行きつく先きも定まらで、下宿といふものに無暗に入るは、狼の群に羊を投ずるが如く、危しとも危うし、確かに賴む內なくば、娘は上京せざるものなり、卒業證書抱けるまゝ、身の振り方に惱む婦人にも多くなりゆくは、生存競爭といふ文明の世の掟にて、櫻かざして今日も明日も暮らして居れば濟みたるは、遠く昔のこと、今は花見るにもパンのことが氣にかゝるとは、これだけは情なし。

東京支部麻布鎭錄部假設會當日の撮影

愛國婦人會の歌

浦月子

靜けき海に波おこり
晴れたる空も忽ちに
黑雲襲ふためしかや
御恩海のごとくにて
御稜威は山と彌高き
我大君の御代にしも
北の國より吹く風の
いつしか起す村雲は
暗憺として廣ごりぬ
宣戰一聲かしこくも
いともたうとき詔勅
下るやがて國民の
振ひて起ちぬ强者に
海にくぬがに醜の仇
こらしめ給ふ御軍の
健兒百萬にくみどる
やまと魂たてにして
祖國をおもふ誠心は
賓や武器にも勝けん
向ふ所にあだもなき
二十閱月たゝかひて
捷おほせたり海陸に
忠勇無比のわが兵士
屍は海に野にやまに
十もてかぞふ萬の數
傷つきなやむ人々も
病にたふるゝ同胞も
殘軀と成る益良雄も
算へ來れば限りなく
忠魂義膽とこしへに
國威を揚げし御寶ぞ
曠かへり見よ芳しき
名は千歲に衰ろへず
功は不朽に殘れども
そが故鄉は如何ぞや
朽木に似たる老身と
纖弱妻子は遺されて
たよる方なき捨小舟
浮世のうみに漂ひて
辛き險路に迷ふらん
其夫其子は君のため
御國の爲に二つなき
命さゝげて勵らきぬ
同じ御國の民にして
深き惠にうるほへる
女しなどか立ざらん
立ち働くの道はあり
便る方なき老の身に
生ひさき遠き孤兒に
世になき人に手向草
高き學きおしなべて
盤す誠ぞうるはしき
單の庭にきづゝきて
立つこと難き不憫の
手なえ足なえ盲たる
その人々を慰さむる
癈兵院のもうけさへ
女の業になりたゝむ
これぞ愛國婦人會
集へ諸人もろともに
慈悲の心を基礎にて
國につくさん女どち

電話番町五百二十番

◎本號には第一師團招魂祭參拜遺族接待の狀況を寫眞版附錄とせり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人の事業に就て

文學博士　桑木嚴翼

自分は教育に從事して居る上からでもあらうが、社會から紳士と呼ばれて居る一人前の男子よりも、自然學生に對して親みが深い、學生の方に多く同情を寄せて學生の朋友となることを快く思ふて居るのである、また女子に對するも其の通りて、女子教育には關係はないが女學生や女教員には他の家を齊へて居る所の夫人方より、より多く同情を表して居る次第てある、勿論これは貴婦人方に接する折が少ないからでもあらうが、何うも學生の方に同情心が深い、今日の女學生は或る一部の社會から頻りに批難されて居るが、自分はこの女學生社會に將來健全なる活動を齎らす可き一分子の含まれて居ることを信じて疑はないのである。

其處で折々女學生團體の會合に臨む機會を得て、其の周旋振りに感服して居たのであるが、其後貴婦人方の催したる或る會に臨んで、其の周旋振りの流石に遙か女學生より上手であるのに感心したことである、その敏活なる擧動と經驗ある手腕とを有つて、種々なる事業に盡力されたならば、經驗の少ない女學生などの比にあらずして必ず立派な効果を奏するに違ひない、この勢ひを以てせば成程戰時中軍人に對し或はその遺族に對して、充分の補助を與へられたことが分かる、將來は歐米に對して遜色なき活動を我國の女流界に望み得ることが出來ると確信した次第である、併しこの傾向に對して少しく憎まれ口を利くのも強ち敬意を失すると云ふ譯でもあるまいから、自分の實見した所を陳べて見やう。

曾て貴婦人の開かれた或る慈善演藝會のあつた時、自分は委員控所の近くに座を占つて居たが、其時の狂言で烈婦が敵の亂入を拒むで將に自殺せんとする所に至るや、滿場水を打てるが如く、觀客の目には涙浮び、唯だ歔欷の聲のみ高かつた、この時突然嬌艶かしい笑い聲が委員の控所に起つた、併し是れは滿場に響き渡ると云ふほどのことでなくて、聞へたのは唯だその近所ばかりであつたが、自分は折角得たる幻影をこの笑い聲で消されて了ひ、猶ほ場所柄に不似合なと云ふ感情が生じて、忽ち興が覺めたのである、勿論委員が見物人に不快の念を與へると云ふ考へのないことは明かでもあり、且つ終日の奔走に疲れたる時の笑ひであるから、是れを咎むるは少しく酷であるかも知れないが、併し慾を云へばこの人々にして多少自らの任務を思ひ、文藝の價値を認めて居たならば、斯樣の失態を來すことは無かつたであらうと思ふ、故に慈善其他種々なる方面に向つて事をなすには、其の事業の意味を忘れずに活動することが必要である、徒らに飛び廻はるばかりの、無意味なる活動は望ましからぬことである、例へば事業の爲めか何にかで旅行をするにしても、唯だ途中の服裝にばかり氣を奪はれて、その方にのみ注意するやうでは、到底眞の目的を達することは出來ない、目的を忘れて枝葉に亘るものとなつて了ふ。

要するに今の日本に於て活動せる所の婦人全體が、未だ文藝と云ふものに何程丈けの價値があるかと云ふことを知らぬのが一の缺點である、畢竟は文藝に趣味を有たぬ所より其場に臨んで、唯今陳べたやうな失態を演出するのである、故に自分は一般の婦人が文藝の價値を認むるの日の一日も速かに來らんことを希望して止まぬものである。

終りに臨んで婦人の活動すべき範圍は、唯だ徒らに表面に立つこと即ち救助とか慈善とかいふ事ばかりでなくて、眞に世の文化を高めんとする上に於て文藝の進步を圖ることなどに充分其餘地を存することを信じて、殊に上流貴婦人の注意を促したいのである。

▲母より受けたる教訓▼

評議員　奥村五百子

女は他家に嫁するものなれば、一家を整ふる道を心得置くべきこと肝要なりとて、麹をねかせる道より、酒、味噌、醤油の釀造を始め、漬物一切、總ての調理法をば、充分に教へを受け、讀書、裁縫、手車、遊藝なども大體は教習し、十三歳の時より一家の着用する衣服は、自分一人にて引受け、夜も深更に及ぶまで裁縫し、決して怠ることなかりき、斯の如き業務の出來得るに至りたるは、皆な母より受けたる教訓に依りてなり。

一妻多夫としての西藏國民

寺本婉雅

西藏の宗教は多く喇嘛教でありますが、この宗教國の或一部のものは、一妻多夫を主義として居ります、兄弟が三人あるとすると、其の三人に對して一人の妻があるのであります、併しその間は甚だ睦くて一切小言などは申しません、子供が生れると第一番目が長兄の子となり、第二番目が次の弟の子となり、第三番目が末弟の子となり、また其の次ぎが生れたら前に戻つて長兄の子となると云ふ習慣であります、而して婦人の權力は非常に強くして財產權は總て婦人の手に歸して居ります、故に若しも婦人の言葉に服從せぬ時は男子は財產を取上げられて了う恐れがありますから、多少非理のことでも婦人の命なら仕方がないと云つて、其の命に服從するの有樣であります。

何故に西藏では斯樣な一妻多夫の制が行はるゝやうになつたかと申しますに、是れは經濟上の點から來たのであると申す人もありますが、大いに間違つた觀察であります、この風習は凡そ八世紀の頃から行はれて居るので、種々の記錄に據りますと、西藏では六世紀前後は一夫多妻主義であつたのであります、夫が後に至つて一妻多夫主義となつたのは、印度に於ける印度教が舊世紀の始めにニボール國を通じて入つて來たからであります、ニボールは女神崇拜の國で、婦人を以て觀音の化身として居るのであります、また紀元七世紀の英主スロンツアンガンポ王が娶りました唐の文成公主と、ネパール國のケゾン公主との二人の王妃は、西藏の文化を大ひに助けたと云ふので、西藏の國民は西藏開國文化の恩人として祭り、遂には二妃を觀音の化現タラーヤ神の權化として崇拜するに至りました、斯樣なことからして次第に婦人を尊ぶ風習になつたのであります。

喇嘛教の秘密部には、多面多手にして一身を有する男性佛體、又は男神と是れに配合せる女性佛體とがあります、多面多手は智識の完全を表し、能力の充實を示すものであつて、一佛にして智慧の作用廣大無盡なるを顯はすのであります、既に男性的佛體または神體があれば、これが配偶者として女性的佛體の起るは必然の結果であつて、こゝに男女合一の神格化せる對象偶像が起るに至つたのであります、而して女性と男性とを比較しますと、女性の智識能力は到底男性のに及ばぬ所よりして、女性は一人で千人の働きをするやうな千手觀音の如き多面多手の佛體が出來たのであります。

要するに斯かる宗教上の影響を受けて、女神を崇拜する結果婦人は尊いものとなり、一轉して婦人は萬能なり、一人にして數人にも適し得べく、一婦にして萬人とも待向し得べしとの觀念が、遂に一妻多夫の如き陋風を醸出するに至つたのであらうと思ひます。

ますらをの國に出るも母君の
よきをしへをは受しなりけり

監事　男爵夫人　三井苞子

共同的娛樂

農學博士　横井時敬

近來の統計に依りますと、都會の人口は段々に增加致しますが、農村の人口は段々に減少致します、是れは畢竟農村に適當なる娛樂が缺て居るからであります、私の考へでは、日本の市町村制などは餘り組織が複雜であつて、形式ばかりは立派であつても内容は不十分である、今少し小區劃にして、一村を恰も一家の如く致し、何事も共同的に行ふと云ふことに致したらよからうと思ひます、假令ば村に二ッも三ッも神社やお寺があつて、御祭なども別々に行はれますが、是等も出來得可くんば一つに纏めたらよからう又村に昔は村芝居なるものが行はれて、土地の若者が自ら役者になり、老若男女相寄つて樂むと云ふ風があつたが、この風俗は現に獨乙でも行はれて居つて、或る村では登場の役者は其土地の者に限ると規定されて居る處さへあります、また盆踊りなども今日は廢せられて居るが、西洋の舞踏もこの盆踊りの進化したものであつて、是れも適當の監督の下に行へば弊害はない、其他一村には成る可く公會堂の如きものを建てゝ、祭日などには其處に男女老幼打寄つて飮食娛樂を共にすると云ふことに致したいものである、斯くすると風儀が亂れると云ふ說もあるか知らぬが、女子教育が盛んになつて、婦人が品行を正しくするの必要を悟るやうになれば、自然風儀は亂れずして適當の娛樂を行ふことが出來ると思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

鳩のお墓

三島霜川

あるお家に、鳩が一羽飼ッてございました。いくら人に馴れてゐると謂ッても、いくら優しい心を持ッてゐると謂ても、鳩は鳩。口の利かれる筈はございません。けれども、このお家には、五歳になるお孃さんがあッて、鳩は、お孃さんのお友達て、大層仲よしてございました。てすから、お孃さんは、朝、眼が覺めると直ぐに鳩の小屋へ行ッて豆を遣ます。それから鳩を小屋から出して、鳩と一所に、お庭を散歩するのでございますが、鳩は決して逃げません。くッ、く、くッ、くと優しい聲で啼きながら、お孃さんの後を從いて廻ッてゐるのでございます。それからまた、お孃さんがお出と謂ッて、手を出しますと、鳩は直に手の上に乗ります。もし肩を叩くと、肩の上に乗ります。そして眼をパチクリさせてゐるのでございました。偶時にお孃さんが、「今日は、お前、自由に遊んでお出で。」と謂ッて放して遣りますと、鳩は、遠くへ飛んて行ッて、半日も遊んで來ることがございます。こんな風てすから、お孃さんばかりてはありません。お家の方は皆、この鳩を可愛がッて居りました。

この鳩が、ある晩、鼬といふ惡い奴に押込まれて、哀や、むざ〳〵殺されて了ひました。さて翌る朝、お孃さんは、何時もの朝のやうに、鳩の小屋の前へ行ッて見ますと、其處らが羽根だらけになッて、小屋から五六間も離れて、鳩の死骸が靜に横はッて居りました。お孃さんは、おどろいて、いきなり、わッと泣き出して了ひました。

その泣聲に、びッくりして、母様や父様が、その場へ駈付けてお出でになりますと、この始末。「ま、可哀想に……何うして、こんなに……」と有仰ッても仕方がない。遠く天に回ッた鳩の魂は歸りません。

そこて、お孃さんを慊して、それから、この鳩を、お庭の大きな櫻の樹の下に葬りました。そしてお墓の積て、その上に、小いさな石を一ッ載せて置きました。この日を始めとして、お孃さんは、毎朝〳〵、この鳩のお墓に、何か花を手向けて遣りました。

そこて、このお孃さんは、何うして、お墓へ花を手向けることを知ッてゐたのでございませう。それは、このお孃さんのお祖母様といふ方が、半年ばかり前にお亡くなりなすッたのでございます。て、お家の方等が、お祖母様のお墓へ參詣ッては、お花を手向けられるのを見てゐて、その眞似をなすッたのでございます。この優しいお孃さんにお花を手向けられて、優しい鳩の魂は、何處へ行ッたてございませう。

ある時、母様が、お孃さんに向ッて訊ねました。

「ね、鳩は、何處へ行つたのでせう。」

すると、お孃さんは、しよんぼりして、「お墓の下へ……」と謂ッて、ふと何か思出したやうに、少時考へて、「ね、母様。私、然う思ッてよ。あの鳩。きッとお祖母様の許へ行ッて、お祖母様と仲よしになッてゐてよ。だから、いつまでも〳〵、鳩のお墓へは花を手向けて遣らなければならないのね。」（完）

小魔の奏功（上）

トルストイ著　若草譯

一人の水呑百姓、粗糲の握飯を腰にして、己が住へる藁屋を、朝早く立出て、畑打にと往つた。犂の位置を直し、馬に鞍置き、いよ〳〵仕事に取掛る前に、件の握飯をば藪蔭に置いて、裘もて丁寧に其の上を覆ひ隱した。やがて馬も疲れ、自分も空腹くなつたので、暫時仕事の手を休め、馬の鞍を卸して秣に就け、自分は晝餉を喫べようと、藪蔭の裘を取除けて見れば、こはそも如何に、何時の間にか握飯が、空に飛んだか、地に消えたか、置いた其の場處には見えなくなつた。農夫は裘を打ちふるひ〳〵、そこらあたり萬遍なく、探して〳〵探しぬいたが、失くなつたものは何處までもない、餘りの不思議さに、驚愕を通り越して呆れて了つた。誰が盗んだであらう、何者が攫つて往つたであらう、それと目指すべき鳥一羽も飛んで居ぬ此の眞晝中に、

抑これは小さき惡魔の所爲であつた。農夫が鋤返しに餘念なき折柄、彼の握飯を竊と盗み、樹蔭に蹲踞りて身を潜め、農夫が那麽やうな呪咀の言葉を吐き出すだらうと、小耳を立てゝ待つて居たのである。農夫はやゝ氣色ばみて見えたが、間もなく元の沈着いた狀態に立歸り、さていふやう、

『好し〳〵、俺はまだ餓死する程のことはない、大かた俺よりも腹の空いた人が、持つて往つたのであらう、俺が食はずとも、其人の健康の補足になるなら、それて好い哩。』

かくて農夫は、程近き筧の水を一掬ひ、乾ける咽喉を濕うし、暫時休憩つた後、再び馬に鞍置いて、畑打にと取掛つた。小魔は此農夫を、罪業の淵に陷れかね、いたく心外に思ひながらも、魔群の頭領に、分捕の握飯を持歸り、農夫が握飯を盗んだものを呪咀はぬのみか、『俺は食ずとも、其人の健康の補足となれば好い』と、呟いた事の一伍一什を報告した。

惡魔の頭領ははたと怒り『おのれ意苦地なし奴、何といふざまだ、土百姓や田舍老婆にまで、其樣生意氣な口をきかせる日にやア、吾等の目ぼしい仕事が、何處の隅に轉がつて居るンだ、下れッ間拔奴、分捕の握飯は、當分取上げて置く、これを貰へるやうな、一廉の働をして來い、是から三年の間で、汝が此百姓を存分とッちめることができんなら、未來永劫の勘當と心得ろ。』

小魔は勘當と威嚇されて、此後の妙案は那麽したものであらうと考へ込んだ。千思萬考の末に、詮ずるところ小魔は善良なる通常人に化けて、彼の水呑百姓と一緒になつて勞働することに取定めたのである。かくて小魔は今年の旱を見越して沼のやうな不毛の濕地に、麥粟を種えることを敎へ、他の農夫の作物が、日に焦けて、收穫の皆無となつた此歳も、此處ばかりは厚く高く、生々と茂り、十二分に穗尖が出揃ひて、比類まれなる豐作を取り、天晴水呑百姓が、全一年間の貯蓄を餘したのである。翌年の春には、彼の親切なる勞働者は、更に小高き丘の上に、穀物を播くことを勸めた。案の定、此歳は非常な雨續きで、他の農夫の作物は、收穫前に流されるもあれば、腐るもあり、いづれ散々の體ならぬはなきに、此水呑百姓ばかりは、小山の上から、澤山の作物を苅取り、萬の必要を充たした後に、凡そ自分の知つて居る程の、使ひ方といふ使ひ方に、消費した其餘も、新しく建増した小舍の中に、積みきれないといふ大した狀態。

そこで彼の勞働者が、此の餘計な穀物を酒母にして、火酒を釀造することを敎へてやつた。農夫は早速火酒を蒸溜して、自分も飲み、又他の人にも飲せ、面白く可笑く、浮世を送るの身分となつた。時分は好しと、小魔は頭領に復命して、最早分捕の握飯を受領すべき時機となつたと、誇顔に述立てた。

惡魔の頭領は實地檢分として、此の百姓の家まで出掛けたとき、恰かも農夫が其近處の富有な百姓仲間を招き寄せて彼の手製の火酒を饗應つて居る最中てあつた。農夫の妻が德利を抱へ、彼方此方と酌取り廻る内に、那麽かした機で、德利を取落し、そこら一面、酒の波を漲らしたので、農夫は非常に怒氣立ち、言ひ穢く其妻を罵り喚いた。

小魔肘もて頭領の脇を竊と突き『那麽です首領、彼男が今でも握飯の紛失を平氣で居る雅量があるでせうか。』

農夫は心中に散々其妻を呪咀つた後、主人自身酌に立つて、其座を取繕つた。其時招待以外の小百姓一人、野稼の歸りに立寄つて、席の一同に挨拶した。此男多衆の人々が、酒に舌鼓を打ちつゝあるを見て、疲憊ばらひに一杯ほしさの有樣て、それとなく唇を搖かして居る。主人はそれと氣が注いても、一向見向きやらぬのみならず、客人の羽振よき者共の内には、何やらぶつ〳〵と呟く聲も聞える、『彼奴等の分際で、吾等と同席するとは無禮至極な』など〻。

惡魔の頭領は頗る滿足の樣子、况して小魔は猶更に誇り立ち『まだ〳〵此の後幕が面白いのですよ。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

王者の名譽と婦人の本分

文學博士　建部遯吾

▲平和時代の婦人　戰爭の時代は短く平和の時代は長い、戰爭時代に大に活動したる愛國婦人會は其の働きを永久に保續し、益々發展を試みねばならぬ、さりながら其の働く可き方面は、戰時に於けると平時に於けるとは自ら異なる處あらねばならぬ、平時に於て婦人が最も勤む可きことの第一は國家社會の基礎をなす處の臺所の整理である、臺所の興廢は延いて國家の盛衰に關係を及ぼすものである、第二は愛國的精神の皷吹者となるとてある、即ち子に對しては母として、人の妻としては夫に對して、各々其の位置に於て爲し得べき限り其の皷吹者とならねばならぬ、既に他人に向て皷吹者の地位に立つ程なれば、身自ら愛國的思想を涵養するとはこれ婦人當然の義務である。

▲婦人の國家に盡す本分　日本の婦人は如何にせば國家の爲めに其の本分を盡すことを得るか、是れは大に研究を要することと思ふ、其の方法として專門の智識を得て、文學家となり美術家となるも可ならん、また婦人の地位を高めんが爲めに、政治の運動を爲し、參政權を得んとするも可ならん、或は出來る限り日々幾錢づゝかを貯金して、老人を養ふことに勤むるも妙であらう、去りながら是等のことは必しも婦人でなくてはならぬと云ふものでない、男子でも出來るとである、婦人の本分とは男子では出來ない事柄、婦人にのみ限ると云ふ事柄に向つて始めて愛國的本分が顯れると思ふ、夫は何んであるかと云へば則ち家政である。

▲中流家庭の不進步　私は西洋に留學して居る間、出來得るだけ家庭にも入つて研究をして見ましたが、西洋に較らべると、日本では國家の組織經營より、家庭の組織經營の方が遙に後れて居るかと思ふ、殊に中流以上の家庭が不完全であると思ふ、其の精神的方面は別として、敎育より受けたる効果を現實に現はすことが出來て居らぬ、例へば秩序であるとか、規律であるとか、時間であるとか、淸潔であるとか、言葉遣ひであるとか云ふが如き方面に於て、著しく日本の中等社會の家庭は後れて居ると思ふ。

▲家庭の王國　家庭は國家の小なる雛形である、政府の如き權力の應用も要し、自治體の如き共同的觀念も要し、其の組織が總て小なる王國と見れば大差はないのである、而して世界の中で國の王となる人は至つて少數であるが、小なる國家則ち家庭の王國の統治者となる婦人は多いのである、此點からして王者の名譽と同じ名譽を負ふのは主婦であるから、其の名譽と共に其の責任も又輕くない、之れを善く統治して往くと云ふことは餘程興味のあることである、婦人が若し此大事業を捨てゝ少なる事業に身を委ぬるが如きことあらば、夫れは本末を轉倒したものと云はねばならぬ。

中庸を失する勿れ

評議員　南鄉柳子

女は中庸と云ふことを忘れてはなりませぬ、兎角女は衣服なども身分不相應に美しきを裝ふことを願ひ、この頃は斯るものが流行すると云ふては、人より先きに其の珍らしきを貪り、著きが上にもよく見せ、奇麗に華奢に、成るべく多くの人の目に立つやうに着飾らんことを願ひ、是れが出來れば其の慾はまた進み、有るが上にも有らんことを欲し行くは、中庸を失つたので御座います、さればとて人の禮服を着るやうな場合に、態と精神だけよければなどゝ申して、皺だらけのものを着て出ますのも、また中庸を失つたことであらうと存じます、されど是れは身貧しければ、少しも恥づることは御座いません、身分相應に致すので御座いまして夫れが中庸で御座います、衣服のみに限らず、人と交はるにも出過ぎず、さればとて己が云ふべきことをも、女は無口こそよきなど申して、何事も人の云ふまゝに顏うち赤らめて聞き居るのも、甲斐なきことで御座いますから、是れにも中庸を忘れてはなりませぬ。

當時の敎育を受けられたる婦人方は、そんな中庸なんど、保守主義は女大學時代なり、今日は女とても進取主義でなければならぬものをと、をかしくもお聞きになりませうが、私は矢張り今日とても少しも用ひられぬ敎へとは存じませぬ、勿論男子は進取の氣象が必要で御座いますから、是れにつきて種々なことも起りませうが、夫れはまた已むを得ぬことかと存じます、て女には矢張りこの敎へが適當であると私は信じて居ります。

例へば當時よくありまする慈善事業に就きましても、中庸を用ひませぬと、平均を失し、衝突の出來るやうなことがないとも限られませぬ、又たこの戰後の婦人でありながら、婦人として相當に爲ねばならぬ公共の事業をも、交際好きの出好きの人の仕事なりなど申して、少しも同情を寄せられぬ婦人が、隨分ないとは云はれませぬ、しかし公共のよき事業でも家事を打捨てゝ是れにのみかゝつらふのも本末を誤つたことで御座いまして、是等も出來る限り中庸に致して決して惡しからぬと私は信じます、要するに身分相應と云ふとが中庸の眼目であります。

家政研究問題課題

一　如何にせば最初に百圓を貯蓄し得べきか

二　如何にせば百圓を善良の途に使用し得べきか

▲答案締切四月十四日

春先の小兒の衛生

ドクトル　川瀨元九郎

寒き風や雪の爲めに苦められて悄れて居た草木も、此頃の春風に依つて再び甦つて靑き芽を出し始めた、夫れと同じやうに冬中寒さの爲めに萎けて居た小兒も大ひに元氣付いて、愉快に遊ぶやうになつて來た、春から夏の始めまでは一年中に於て小兒に取つて一番好都合な時期であるから、小兒がズン〳〵成長するのである、で、此時期に於ける衞生上の注意は極めて單純なものである、出來る丈け戶外に出して遊ばせるが宜い、さうすると汗が出て皮膚が不潔になり、塵埃の爲めに手足が汚れるから、隔日位ゐに入浴をさせ、日々微溫湯で摩擦をして遣るが宜い、從つて冬期中よりも繁く下着の洗濯をして遣らねばならぬ、溫暖な戶外で劇しく運動をなし發汗をすれば、自然空腹にもなるから、充分に滋養品を食べさせるが宜い、併し食慾に任かせて間食を許してはならぬ、間食さへさせねば食事は小兒が滿足するほど食べさせて宜しい、決して分量を制限するの必要はない、夏になると腸胃加答兒に罹かり、冬になると鼻加答兒や氣管枝加答兒に罹かり易いから、小兒の健康を保持することはなか〳〵容易でない。

然し春は夏や冬のやうな心配がないから極めて容易であるが、この好時期に於ける處置を誤まると、次ぎの夏や冬に於て病氣に襲はれ易いものである、故に注意して居らねばならぬことは、日中戶外て遊ぶ時には、成るべく薄着にして置き、運動を中止したら直ちに微溫湯で全身を拭いて汗を去り、夫れから下着を取替へて遣ること、夕方になつて氣溫の下降する時分には、着物を一枚多く着せて、感冒に罹からぬやうすることとてある。

要之、春先きの衛生は、多く遊ばせて多く食べさせることである、餘り大切にして納つて置くと、黴が出來て一生不幸なものになつて了うから、親達は充分に注意をして遣るが宜い、日向にある草木は非常に成長するが、日陰にある草木はそんなでもない、是が何よりの證據である、此時期を善く利用したいものである。

舊藩時代の御家風

幹事　新山雅樂子

▲婚禮衣檢視役　私は舊長州藩でありましたが、藩の制度中最も嚴格なるは衣服の掟でありました、婦人と雖も絹物を着ることを禁ぜられ、刺繡をしたものゝ如きは一切着ることが出來ませんでした、最も甚だしきは婚禮をする際に當つたる衣服を着ることを禁ずる主旨よりして、御役所から御檢視が立つたのであります、私が婚禮した時は四月でありましたが、水色の綸木綿の紋付を着て檢視を受けたことを覺へて居ります、今日から考へると實に笑ふべきことの樣でありますが、昔し質素なることを勵行した一例は、概ねこの類でありました。

▲三代御側役御免　尙ほ一例を申しますと、御目付役と申しまして、當時の巡査の如きものがありまして、若も御法度の衣服を着て居る者を發見しならば直ちに之れを捕へ、小柄を拔いて襟に差し通し、御用紙で以て之れを封じ、且つ其の姓名を書取て歸り、城中の揭示場に張出しが出て、何某の妻女は御法度衣を着して居つたから、三代の間御側役を勤むることが出來ぬと云ふ公告が出た程でありますから、一家中の者擧つて質素なる衣服を着たものであります。

▲良風時代を支配す　今日から考ると、昔の質素の風は甚だ可笑な事のやうに思はれますが、決してさうではありません、質素なる衣服が一統に揃ふて居るので其の美風は其の時代の風潮を支配して居りますから、少しも外見が惡いとか、可笑いとか云ふことはありません、反つて絹物などを纏ふて居るものは親族中からも擯斥せらるゝと云ふ程であります、質素な風には限りがありますが、奢侈の風には限りがありません、今日の如き競ふて美服を纏ふ樣になつては、何處まで進むか實に氣遣はしき次第であります。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

●理事會例會　同會四月中の例會日取は左の如し

四月十一日(第二水曜日)午後一時

●評議員會例會　同會四月中の例會は第四水曜日開催すべきの所是れを繰上げて左の日取を以て開會す

四月十一日(第二水曜日)午後二時

●總會準備委員會　第五回總會準備委員會は昨四日午後一時より本部樓上に於て開會したり、其の準備委員は左の如し

板垣絹子、伊東美津子、岡部抵子、尾崎八重子、高木富子、清浦錬子、千家俊子、伊集院繁子、仁尾繁子、波多野辰子、濱尾作子、早川里子、新山雅樂子、渡邊いね子、穗積松子、園田銈子、中山幸子、宇佐川種子、高木錸子、棚橋絢子、室田せい子、柳谷千代子、古市幸子、澁谷知和子、三輪田眞佐子、

●接待準備委員會　靖國神社臨時大祭參拜遺族接待準備委員會は去月二十八日午後一時より本部樓上に於て開會したり當日の出席者は松平須磨子、寺內瀧子、東鄉鐵子、稅所永子、關郁子、有島幸子、藤井と〻子、阪井春子、三井五十子、福島貞子、鳩山春子、神山萬佐子、仁杉歌子の諸氏なりき尙ほ其の準備委員は左の如し

酒井夏子、河村清子、黑木百子、松平須磨子、神山萬佐子、鳩山春子、大藏松子、長岡芳子、內山訓子、山脇房子、藤井と〻子、福島貞子、後閑菊野、鄉濱子、寺內瀧子、有島幸子、阪井春子、稅所永子、三井五十子、三井壽天子、島田信子、弘田增子、仁杉歌子、關郁子、東鄉鐵子、

●第一師團招魂祭遺族接待　去る十三日青山練兵場に於て執行せられたる第一師團臨時招魂祭の當日吾が東京支部主催となり一師團管區各府縣支部聯合して參列の遺族を接待慰藉したることは前號の紙上に詳記したるが當日出張接待せし支部長評議員幹事(いろは順)は左の如し

△第一天幕受持

幹事橋口喜代子、同丹羽花子、同岡本くま子、同小浦穣子、同金子貞子、同横森武良子、同吉田たい子

幹事鍋潟ふき子、同村田うた子、同村上登茂子、同黑田寧子、同松平すゞ子、男爵夫人　幹事清浦錬子

東京支部長男爵夫人千家俊子、埼玉支部長大久保桑子、副長黑田晉子、評議員平野常子、同田中舒子

△第二天幕受持

幹事石崎つる子、同波多野寫子、同四川よれ子、同小川縞子、同金田あい子、同田中とみ子、同武市□子

幹事中村まさ子、同長竹くに子、同中島壽子、同桑原朝子、同犁塚龍子、同馬島園子、同丸山すま子

幹事前田とみ子、同郷もと子、同江崎うた子、同守島龜代子、同下瀨勝千代

△第三天幕受持

幹事飯塚里子、同岩佐千賀子、同長谷川小枝子、同西川つい子、同堀內まん子、同保利久士、同小野よし子、同大湯よれ子、同渡邊いわ子

子爵夫人　幹事加納鍃子、同川崎安子、同礒石作子、同上原ろく子、同古屋ます子、同阿部たか子、同淺野春子、同淸水よれ子

幹事篠近子、神奈川支部幹事岡野まさ子、同渡邊玉子、同鵜澤たみ子、同田沼なる子、同淺水この子、同宮島つれ子、同鈴木鎭子

△第四天幕受持

幹事尾崎愛子、同長田亥勢子、同岡田きみ子、同吉野信子、同田村彰子、同高田はな子、同中村銑子、同中山幸子、同久世作子、同藤田いさ子、同青木要子、同秋間爲子

幹事菊地成子、同岸かれ子、同白石菊子、同日原しよ子、同關萬代子、同鈴木とよ子、千葉支部副長楢脇朝子、同山本喜壽子、評議員新粟みよ子、同萩生登榮子

評議員瀧川竹子、山梨支部長武田はま子、副長桑原みさ子、幹事木村富世子、群馬支部副長堀みつ子、評議員大東たけ子、同隈元きく子、同矢崎千代子、同吉見梅子

△第五天幕受持

幹事今井てう子、同羽田三緒子、同新山雅樂子、同笠井波留子、同吉田僊子、同當間くに子

幹事染谷惠喜子、同宇津木ひろ子、同二藤あい子、同松崎悅子、同布施榮子、同小原靜子

幹事相澤かま子、同進道子、會員味岡たれ子、同栗原八重子、同佐木いち子

神奈川支部主事日比知周、事務員大野八郎、千葉支部事務員大谷淸海、同窅田房吉、茨城支部事務員川崎八郎、同小貫直江、群馬支部主事江袋鬱晄、庶務員土山敬夫、埼玉支部事務員今泉清五郎、栃木支部事務員大森正親、同戸田桐造、山梨支部事務員里見美根雄、長野支部事務員渡邊男農吉

行に付き同月十五日附を以て星野第一師團參謀長より聯合支部總代千家東京支部長へ宛て左の謝狀を送り越されたり

拜啓益々御清適奉賀候陳者當師團招魂祭に付菓子及戰勝紀念地圖遺族一同へ御寄贈被成下御厚志の程師團長閣下にも御滿悅に被思召候依て此段謝意を表し候敬具

明治三十九年三月十五日

第一師團參謀長　星野金吾

愛國婦人會東京支部外八支部總代

東京支部長　男爵夫人千家俊子殿

●要塞砲兵招魂祭遺族接待　第一師團管下に屬する東京灣要塞砲兵聯隊臨時招魂祭は去月十八日横須賀衞戍地不入斗練兵場に於て執行せられたるが當日神奈川支部主催者となり東京、埼玉、群馬、栃木、山梨、長野の各支部聯合して參列遺族約四百有餘人を式後順次神前に進め師團よりの下賜品及び聯合支部よりの菓子弁に戰勝紀念圖を賜與し一々休憩所に導き饗應接待に勉めたるに遺族中一老嫗あり斯の如く種々の品物を戴きては死したる見に對して濟まずと涙を垂れて語れるあり以て當日の接待一般を見るに足らん

●汽車汽船賃の割引　本年開會すべき本會第五回總會の際參會者の爲め其後汽車汽船賃の割引を承諾せられたる旨通知ありたる會社は左の如し

大阪川口同盟汽船本部　三割引

關西鐵道株式會社　二割引

參宮鐵道株式會社　二割引

九州鐵道株式會社　二割引

尙ほ前號所載大阪商船株式會社の航路中臺灣航路のみは割引額二割につき念の爲め附記す

●大谷顧問の謝狀　本會顧問伯爵大谷光演氏は過般九州地方巡錫中病に罹られ一時は病勢思はしからざりしも主治醫の投藥効を奏して昨今は大に輕快に趣かれたるよし之に付き本會長よりの御見舞に對し此程鄭重なる謝狀を寄せられたり

●寄附金披露　其後金拾圓以上の寄附金者左の如し

一金百五拾圓　福岡縣九州鐵道筑豐線機關部從事員總代　多々良信二

一金百圓　福島縣　齋藤茂平治

一金五拾圓　山形縣　吉泉禪救

一金五拾圓　熊本縣下益城郡中山村豐野村會員中

一金四拾八圓　山形縣　風間光

一金參拾五圓　同　秋野光江

一金貳拾五圓　神奈川縣　山口久子

一金貳拾五圓　同足柄下郡溫泉村溫泉ホテル株式會社女中一同

一金拾五圓　函館　松尾サツ

一金拾五圓　神奈川縣　小田松子

一金拾五圓　同　隱岐磯子

一金拾貳圓　山形縣　金子喜勢

一金拾圓　神奈川縣　山口孝子

一金拾圓　山形縣　北條菊

一金拾圓　同　近藤うん

一金拾圓　函館　逸見ミヨ

以上の外支部救護金其他指定の寄附金左の如し

一金百貳拾六圓餘　廣島縣加茂郡志和堀村澤田玉吉外千四百四十二人

一金百圓　神奈川縣　若尾幾造

一金百圓　同　平沼專造

一金百圓　同　樋口ツネ

一金百圓　同　松波正之

一金百圓　在横濱英人ウヰリアム、クレボルン

一金貳拾八圓餘　英國人イボーシー、スミス孃

一金拾五圓　在横濱エル、ケー、バンデンベルフパンヘムステード

一金拾圓　宮崎縣宮崎東諸縣兩郡米商同業組合

一金拾圓　同　水間此農夫

一金拾圓　同　岩男三郎

愛國婦人會各支部會員女子人口比較表

明治三十九年二月末日現在

支部名	特別會員	通常會員	計	三十六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	贊助員
山口	八一一	二六、三七三	二七、一八四	五〇六、九二〇	五、三六	一、〇七二
石川	一、七〇二	一八、〇一五	一九、七一七	三八五、四七八	五、一二	七七六
山形	八一九	一七、〇四四	一七、八六三	四三九、六一八	四、〇六	一四二
岡山	一、〇二九	一九、〇三六	二〇、〇六五	五七七、二七二	三、四八	三六三
熊本	二、七四五	一六、二八九	一九、〇三四	六一〇、四一二	三、一二	二、二九三
京都	二、〇六二	一三、三四八	一五、四一〇	五二〇、三九三	二、九六	三六四
富山	七九三	一〇、五九三	一一、三八六	三八四、九八二	二、九六	六二六
群馬	一、三四五	一一、六八二	一三、〇二七	四五四、一七一	二、八七	一一四
兵庫	二、〇一三	二二、七五五	二四、七六八	八九三、七三四	二、七七	四六一
愛知	一、一五五	二二、六六二	二三、八一七	八六八、五二五	二、七四	六五一
香川	七五七	八、六六九	九、四二六	三四七、八九〇	二、七一	三四八
北海道及函館	二、六二一	一〇、六〇二	一三、二二三	四六五、八〇二	二、六〇	一、〇四七
長崎	二、八五九	九、五七六	一二、四三五	四八九、三六〇	二、五四	五三
愛媛	三九〇	一二、一八〇	一二、五七〇	五一一、三九六	二、四六	二八一
宮城	一、四三四	九、四五四	一〇、八八八	四四五、〇四七	二、四四	七六九
青森	一、〇三四	六、五七五	七、六〇九	三二二、二一一	二、三六	二四〇
大分	七七五	九、二二五	一〇、〇〇〇	四三〇、〇二五	二、三三	四一三
神奈川	一、三七〇	九、八九九	一一、二六九	四九九、六二三	二、二六	三六二
靜岡	二、一四二	一四、六四四	一六、七八六	七七二、七三三	二、一七	九五四
奈良	二八六	五、五七三	五、八五九	二七八、一九一	二、一一	三一二
高知	二五四	六、四四三	六、六九七	三一八、二四五	二、一〇	六一三
三重	三五九	一〇、二四五	一〇、六〇四	五二二、〇三七	二、〇三	三四二
福井	七三六	五、六三三	六、三六九	三二〇、一五四	一、九九	七五〇
岩手	六二二	六、五〇九	七、一三一	三六九、二七八	一、九三	二〇五
滋賀	四三三	六、五八六	七、〇一九	三六四、六八八	一、九二	二、七五四
宮崎	二三七	四、五〇九	四、七四六	二四七、二五二	一、九二	四四七
福岡	一、一一八	九、三〇〇	一〇、四一八	五八二、一五六	一、七九	五二二
大阪	二、九四〇	一〇、八五八	一三、七九八	七八三、四〇五	一、七六	一、〇二三
佐賀	七二二	四、五七五	五、二九七	三二七、六七八	一、六二	一七一
德島	二九五	五、三九三	五、六八八	三五二、六〇八	一、六一	七二
廣島	一、三七二	九、九〇八	一一、二八〇	七四八、六五五	一、五一	六九八
東京	五、六六五	一〇、三四四	一六、〇〇九	一、一五七、五一四	一、三八	五〇三
千葉	九四六	七、四七三	八、四一九	六五六、七八二	一、二八	二六八
島根	二六六	四、〇一八	四、二八四	三六二、六三五	一、一八	四二四
和歌山	二六一	三、一三五	三、三九六	三五〇、〇六九	〇、九七	三五七
茨城	四七八	五、二七七	五、七五五	六〇〇、一一三	〇、九六	二五
鳥取	一五八	一、八五八	二、〇一六	二一七、四四一	〇、九三	三六八
秋田	四四五	三、二四一	三、六八六	四〇三、九九六	〇、九一	一、二六五
鹿兒島	九六七	四、三四九	五、三一六	五九〇、九八五	〇、八九	三四六
山梨	二七二	二、〇六二	二、三三四	二七二、一四八	〇、八六	一三四
埼玉	二九二	四、六〇三	四、八九五	六二七、五五六	〇、七八	三九四
岐阜	五三九	二、八三九	三、三七八	五〇二、六五八	〇、六七	三八四
沖繩	二九五	一、二六二	一、五五七	二三九、五二七	〇、六五	九二
福島	三〇六	三、四一〇	三、七一六	六四〇、八四八	〇、五八	六八
長野	四五八	三、四一六	三、八七四	六七四、一一五	〇、五七	五一三
新潟	六六〇	四、一五七	四、八一七	八九九、一二一	〇、五四	八〇二
臺灣	一、〇四七	三、二一〇	四、二五七	一、四〇二、七七一	〇、三〇	七、一八一
栃木	一五九	一、〇八五	一、二四四	四五〇、一七二	〇、二八	一四二
海外	六二八	一、九七八	二、六〇六	—	—	二、六二四
計	五一、〇三二	四三一、九一〇	四八二、九四二	二五、八一三、〇七五	一、八七	三五、〇二一

備考　支部の配列は女子人口比例數の多き支部より順次配列せり

北海道及函館の兩支部は合算して揭載せり其の內函館支部は特別會員四百九十六人通常會員千六百五人贊助員二百四十一人にして他は北海道支部會員數なり

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎各地支部狀況

◉青森支部　同支部にては第八師團凱旋に方り青森及弘前の兩市幹事部職員會員より各應分の歡迎費を集め兩市とも最も樞要なる場所を撰みて結構壯麗輪奐の美を盡せし凱旋門を建設し職員會員擧て凱旋將卒の接伴に晝夜を問はず熱誠を以て斡旋盡力し各幹事部よりも職員會員若干つゝ更替して歡迎に出で或は酒肴を贈り或は紀念品を贈り殊に西澤支部長は八千の會員を代表して立見師團長及依田鎌田の兩旅團長へ約徑尺五寸大の花環を呈せり尚ほ右花環には本會徽章入の短冊に左の如く夫々祝賀の歌を添へたり

立見師團長へ致せし花環に

萬代ととゝろくこゑはたくひなき　君かいさをのひゝき成けり　泉子

鎌倉丸にて凱旋せし依田第四師團長へ致せし花環に

陸奧の海千ひろのそこもとよむまで　かちとき祝ふ萬世の聲　泉子

鎌田第十六旅團長へ致せし花環に

かちときをいはひておくるこの花に　こもる心の色をみせはや　泉子

又青森市幹事部にては宮城、福島、岩手の各縣及青森縣の一部に於て客歲凶歉の爲めに少なからぬ困難を生せし軍人遺族に同情を表し救恤袋と稱する白米一升入のもの二千箇を同市幹事部內の有志者より募集したるに敢然として同情を表するもの簇出し一體に配付の袋以外に尙八十箇の多きを加へ由て是を右三縣へ五百袋つゝ殘餘を青森縣へ夫々寄贈せり又去月五日同市有力家の組織に係る東北凶作救濟會にて催せし慈善音樂演藝會開催に當り是亦不少斡旋の勞を執り爲に義捐金の加勢を見るに至れりと云ふ

◉福島支部　同支部にては去る二月十二日より福島婦人同情會と聯合し凶作救濟事業を企て區域は福島町を限り軍人遺族癈兵は勿論一般窮民へ古着を募集して施與したるが募集したる古着は福島公會堂に有田支部長以下毎日出席して消毒裁縫し尙ほ其の下働きとしては日當拾五錢を給して貧家の女子を傭入れ退職陸軍中佐小郷武氏を本事業の相談役に仰ぎて萬事の斡施を依托し遺憾なく其の業を了へたるが此間石城郡平町大火に際し出席會員醵金して金貳拾圓を罹災者に贈り又た貧困なる父母の爲めに身を花柳界に沈められんとする一少女あるを聞き直ちに馳せて其の父母を說き金員を與へて少女を乞ひ受け衣服下駄傘等を給して正業に就かしめたり尙ほ此事業の外にしては講談音樂會等を催して純益金三百圓餘を得有志寄附金三百圓と合して菓子、餅の類を購入し凱旋軍隊通過の都度是れを贈りて今日に及べり

◉靜岡支部　同支部にては去月六日靜岡市紺屋町浮月樓に於て講話會を開催したるが出席者二百餘名あり其の重なる人々は李家顧問、竹內陸軍少將、小川安倍兩幹事部顧問を始め駿東其他の幹事部長にして李家支部長開會の辭を述べ次で李家顧問、竹內少將、前田布敎師の三氏懇篤に本會の主旨を說きて會務の擴張は目下の急務なる所以を陳べられ大に聽衆に感動を與へたり右了つて一同へ茶菓を饗し餘興としては曩に英國皇族殿下靜岡御駐泊の節御覽に供したる日英踊等ありて頗る盛會を極めたりこの結果會員諸氏大に盡力して會員增募に奔走せられ成蹟佳良にして申込者續々としてあり

◉山梨支部　同支部に於ける軍隊歡迎の狀況を報ぜんに第一師團騎兵師團等の凱旋軍人の解隊にて歸還するもの尠なからざる爲め甲府驛に於ては支部長武田子副長桑原雎子同川口きを子を始め其他の幹事會員また上野原驛に於ては幹事飯島袈裟子水越むめ子等の諸氏嚴寒積雪をも厭はず毎日四回宛出迎へコーヒー敷島湯茶等を饗して遠征の勞を犒ひけるに兵士は何れも其の厚情を謝して愛國婦人會の萬歲を唱へ喜悅面に溢るゝを見受けぬ

◉石川支部　同支部內河北郡幹事部にては去月十日幹事部長山根外譽子外幹事會員九名打連れて金澤陸軍豫備病院に傷病兵を慰問しビスケット六拾斤(價格拾五圓)を寄贈したり右は同幹事部內津幡町會員が舊冬來餘暇を以て裁縫等を爲し其料金を蓄積して寄贈せられたるものなり

◉千葉支部　同支部內木更津町幹事佐々木かね子氏外六名發企し東北三縣凶作地へ寄贈すべき同情米を募集したるが今回一升より三升入の袋七百五拾三個調達したるを以て既に發送の手續を了したり

◉北海道支部　同支部內札幌幹事部にては第二十五聯隊の凱旋將士へ紀念品を贈與すべく是れが調製費を募集したるに意外の多額に上りたるを以て尙ほ進んで出征軍人家族の困難なるものに其の殘金を分與し軍人遺族には靖國神社史一冊づゝを贈與することに決したりと

◉上海委員部　同委員部にては去月十五日レンジロード趙氏の花園に於て第二回總會を開會し大阪朝日通信員堀扶桑氏創立以來の關係を陳べ次に永瀧委員部長就職の挨拶を述べ尙ほ今後國家の爲め本會の隆盛を計られたしと陳べ其他二三氏の演說ありて式を了へ夫れより園遊會に移り當日の正賓たる練習艦隊一百數十名の少尉候補生は島村司令官其他の艦長と共に入場し非常の盛會を極めたりき

◎佐賀支部遊說日誌(三)

奧村五百子刀自一行

▲二月十七日　午後一時有田發の列車にて佐賀市へ向ひたり庄司町長を初め有志役員數名武雄驛迄見送られ會員十數名停車場迄見送られたり三時佐賀着松屋旅館に投ず西河島副長藤澤主事山村事務員出迎はれたり神崎幹事部より下京田氏準備の爲め來佐せられたり

▲二月十八日　晴　午前十一時四分佐賀發の列車にて神崎町へ赴きたり支部よりは高峯河田久米山村伊藤事務員同行せられたり神崎驛にては郡山幹事部長を初め十數名の役員會員出迎ける一行は柳屋旅館に投す午後二時半より圓福寺に於て講話會開催聽衆約九百餘名郡山幹事部長開會の趣旨を述べ次に自分は奧村女史と例の如く講話し六時閉會せり

▲二月十九日　晴　午前十一時郡山幹事部長藤山橋本大石の三幹事同行城田村に至る午後二時半大龍寺に於て開會下京田事務員先特準備に務めたるを以て參會者約二千餘名を數ふ郡山幹事部長開會の趣旨を述べ次に自分と奧村女史と例の如く講話し五時半閉會直に腕車を驅りて神崎町旅館へ歸りたり

▲二月二十日　雨　午前十一時廿一分神崎驛出發三養基郡鳥栖に赴きたり郡山幹事部長藤山橋本大石半田の幹事同行見送られ郡長事務員は停車場迄送られたり鳥栖驛に着するや荻原幹事部長を初め福島郡書記幹事會員出迎はる一行は旭館にて晝餐を喫し午後三時より郡役所に於て講話會開催聽衆約百五十餘名支部よりは西評議員中野幹事出張せらる福島事務員開會の趣旨を述べ次に自分と奧村女史と例の如く講話し五時半閉會せり

▲二月二十一日　晴　零時廿分鳥栖發の列車にて北茂安村に到りたり荻原幹事部長を初め內藤福島石井重松の四幹事中島事務員吉村郡書記同行せられたり中原驛にて下車し夫より腕車にて同村德常寺に到りたり藤永同村長を初め二三の村長有志來會午後二時半より開會聽衆約八百餘名村長開會の趣旨を述べ次に例の如く自分と奧村女史と講話し五時半閉會夫れより元の道を經て中原驛に到り此處より汽車に乘じ佐賀驛に歸着したるは八時三十分なりき西河島副長野々山評議員下村幹事山村事務員停車場へ出迎はれたり三養基郡書記吉村氏佐賀迄見送られたり

▲二月二十二日　雨　午前は支部職員來訪せられたり午後三時半より佐賀市與賀劇場に於て講話會開催石丸幹事部長を初め幹事支部職員事務員幹旋の勞を執りたり先つ石丸市長開會の趣旨を述べ次に例の如く自分と奧村女史と講話し五時半閉會せり此日聽衆約一千五百餘名なりき

▲二月二十三日　雨　午後二時半より新馬場劇場に於て開催支部職員幹事部職員出席幹旋の勞を執らる聽衆約一千餘名(場內狹くして成美女學校師範學校生徒は入場することを得ずして空しく歸りたり)山村事務員開會の趣旨を述べ次に自分と奧村女史と例の如く講話し五時半閉會せり午後七時より楊柳亭に於て不破一部長を初め支部長幹事部職員三十餘名會合懇親會を催したり

附記各郡よりは續々入會申込みあり又講話會開催望の箇所も漸次增加の模樣なり

▲二月二十四日　晴　午後一時より佐賀郡神野村長音寺に到りたり鶴崎郡書記福田村長副島幹事等幹旋の勞を執られ支部よりは松尾評議員出張せられたり全二時半より開會聽衆約三百餘名開會の趣旨を述ぶるに次て例の如く自分と奧村女史と講話し五時半閉會せり

▲二月二十五日　曇　天午前ヵ時より佐賀郡春日高等小學校卒業生同窓會の請に應し自分は伊藤學務員同行全校へ赴きたり全十時より開會參集者約二百五十餘名三上校長紹介の勞を執り次に講話し正午時閉會直に佐賀市へ歸り奧村女史同行東與賀村開田庵に到り幹事部よりは鶴崎事務員出張されたり午後二時半より開會聽衆約三百餘名鶴崎郡書記開會の趣旨を述べ次に例の如く講話し五時半閉會せり佐賀市へ歸りたるは六時過ぐる頃なりき

▲二月二十六日　雨　零時卅分旅舍を出て蓮池村に赴きたり支部より熊谷幹事同行されたり一時半頃眞敎寺に到りしに神崎郡幹事部長郡山氏藤山大石の兩幹事下田事務員出張され居たり二時半より開會聽衆約六百餘名郡山幹事部長開會の趣旨を述べ次に例の如く自分と奧村女史と講話し五時閉會せり夫より直に歸路に就き六時半旅館へ歸りたり此日即時申込十四名

▲二月二十七日　晴　午前來訪者二三名ありたり全十時四分佐賀發の列車にて田代へ赴きたり鳥栖驛より荻原幹事部長を初め幹事數名吉村郡書記同行されたり十二時着午後二時半より田代尋常小學校に於て開催聽衆約八百餘名(鳥栖よりも百五十餘名來會且つ佐賀師範學校女生徒數名も見受く)原村長開會の辭を述べ次に自分と奧村女史と例の如く講話し六時閉會夫より佐賀へ歸りしに時八時を報したり(高橋眞喜子記)

第廿五回作歌集
題　學
選者　某公爵夫人
規定　一人三首以下
優等の作歌は四月二十日發行本紙上にて披露すべし

第十八回短文集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　一行十八字詰十五行以下
優等の作は四月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第六回俳句を募る
題　青葉
選者　編輯局同人
規定　一人三句以下
優等の句は四月二十日發行本紙上にて披露すべし

締切四月十日限り

家庭こよみ

▲行事▼　六日　大豆麥種蒔き始め△八日　灌佛會△同日　陰曆の十五日にて汐干狩によし△十一日　愛國婦人會理事會△愛國婦人會評議員會△十七日　上野東照宮祭△二十一日　稗胡麻種蒔き始め

▲日取▲　先勝(十日、十六日、二十二日、二十七日、五月三日)友引(五日、十一日、十七日、二十三日、二十八日、五月四日)先負(六日、十二日、十八日、二十四日、二十九日)佛滅(七日、十三日、十九日、二十五日、三十日)大安(八日、十四日、二十日、二十六日、五月一日)赤口(九日、十五日、二十一日、二十六日、五月二日)

▲遊樂▼　花見△汐干狩△釣網共によく獲物彫尠に多からん△旅行の好時節△四月十五日を以て銃獵期盡く

▲料理▼　松魚△めばる△櫻鯛△比目魚鰻△蕨△筍△胡瓜△うど△莢豌豆△初茄子△蓴菜△隱元豆△青物漸く出初めて臺所賑はし

自四月五日至五月四日

第廿六回作歌集
題　星
選者　某公爵夫人
規定　一人三首以下
優等の作歌は五月五日發行本紙上にて披露すべし

第十九回短文集
題　吾が愛する動物
選者　編輯局同人
規定　一行十八字詰十五行以下
優等の作は五月五日發行の本紙上にて披露すべし

第七回俳句を募る
題　初袷
選者　編輯局同人
規定　一人三句以下
優等の句は五月五日發行本紙上にて披露すべし

締切四月二十日限り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

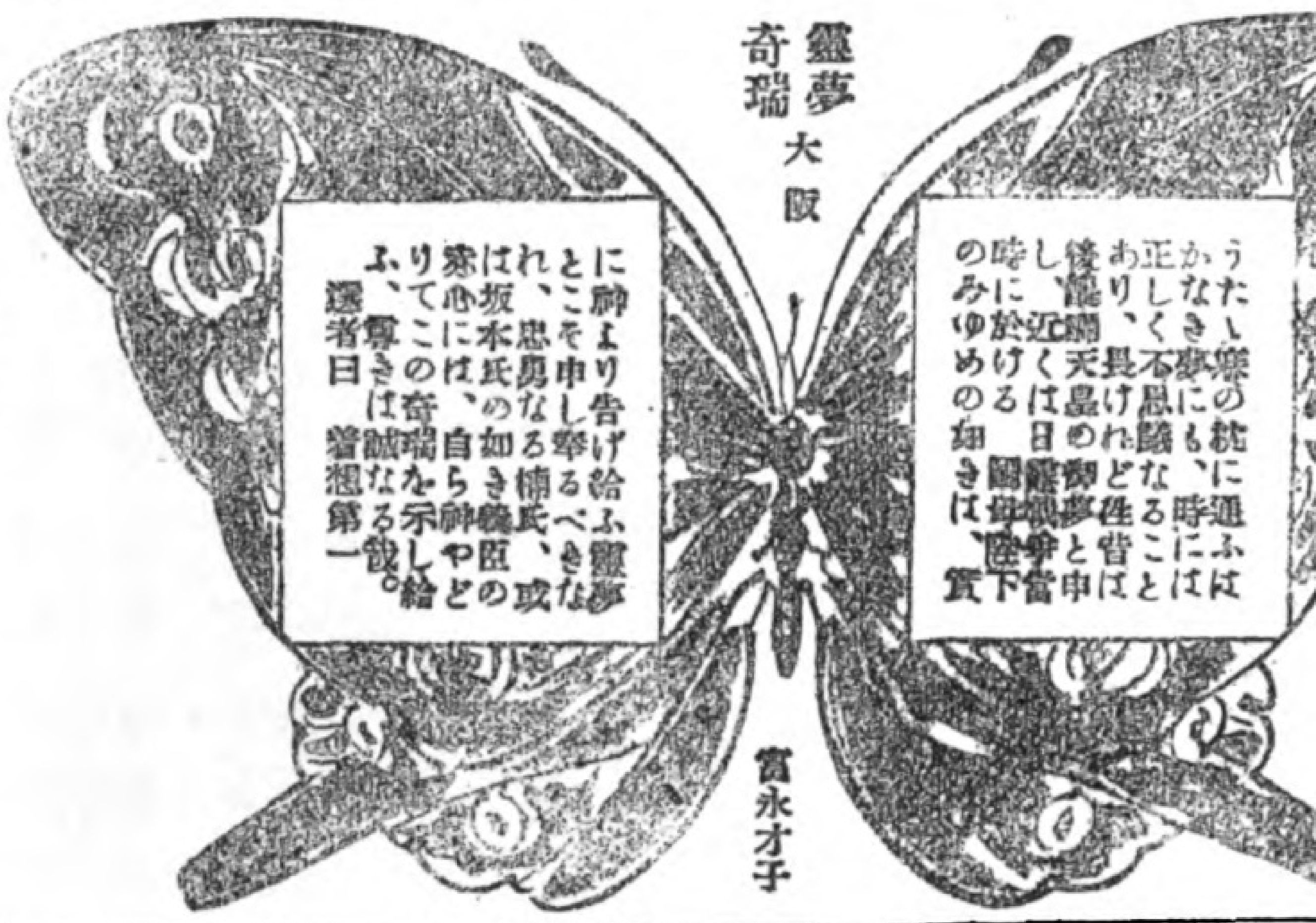
短文披露

題「夢」

▲天使の夢　埼玉　森田竹子

遠方の山邊打ち霞みて、東風緩やかに吹く、右は青麥、左は菜の花咲き匂へる畑の畦道に、莚を布きて五歳ばかりなる稚子の、枕邊には落椿の花を糸に聯ぬきたるを置きて、心憎きまで笑を含みて眠り臥しけり、あはれ此の稚兒、如何なる夢や結ぶらん、足許よりをり〳〵舞ひ登る雲雀の聲の最も長閑に――。

▲選者曰　着想陳套なれど佳作たるを失はず



靈夢奇瑞　大阪　富永才子

うたゝ寐の枕に通ふはかなき夢にも、時には正しく不思議なることあり、畏けれど昔は後醍醐天皇の御夢と申し、近くは日露戰爭當時に於ける國母陛下のみゆめの如きは、實に神より告げ給ふ靈夢とこそ申し奉るべきなれ、忠勇なる楠氏、或は坂本氏の如き臣の衷心には、自ら神やどりてこの奇瑞を示し給ふ、尊きは誠なる哉。

▲選者曰　着想第一

▲病間天樂　岡山　寺松まさ子

花の天蓋綠の褥、實に千金の春の裝ひ、籬根を見越し松原續き水青く砂白きあたり、時々鳥の遠く近く遊び戲るゝ又なくうれしきに、松の梢をさ渡る風、岩打つ波の遠つ音、天の舞樂と心も空、覺えず恍惚となり行くまゝ、天津乙女の妙なるさゝやきも聞ゆやうなり、この日頃煩ひし

浄土は此處なるよ、罪を悔ひ罪に泣きし我は今、此世ながらに高き高き神の啓示を受けし心地せられぬ、と目覺むれば、我は白き寢床の上、病める一日の永き哉。

▲選者曰　短文壇此彩錦ある人を得たるを欣ぶ

▲紀念の櫻　鳥取　近藤靜子

麗かに晴れ渡りたる空の氣色、床しき鳥の音に誘はれて、何時しか八重の山川隔てたる遠つ方に佇めり、此處は母校の門前にして、友垣とかたみに植へし櫻の、時を得顏に淡紅清白、いとも美事に咲き出でたり、其の奧より餘韻嫋々として漏れ來るは、別れて後こゝに一年、尙ほ耳底に殘るピアノの音、餘りの懷かしさに進み入らんとする刹那、手に持てる書の落ちたるに目覺め、四方を見れば燈下寂寥、唯だ筧の水の音のみ微かに聞へぬ。

▲選者曰　緋き手綱かけたる美しき人を見る樣なり

▲父の面影　愛知　石川類子

浮世の事ども思ひわづらひつゝも、何時のほどにかまどろみけむ、去年亡せ給ひし父君の世にまし〳〵て、面影更らに變らせ給はず、火桶の元に居給へば、病のため常なき風に誘はれ給ひしと歎きしは夢か、あな嬉しやと常々好みましたるいろ〳〵宥めまつれど、はか〳〵しく物語りだもし給はず、御心地の勝れ給はぬにやと打ち守れば、御顏の色常ならず、いかゞはせん、少しお脊なりと擦り侍らむと後に廻はる折りしも、はしたなう己が衣の裾踏まへてよろぼひ伏し、あなやと驚けば夢さめて、あはれ嬉しと思ひしとも今はなか〳〵に物思ひの種となり、長き一夜を涙に明かしぬ。

▲選者曰　優しき筆、情あり涙あり。

▲吁五十年　東京　押田琴子

精神に煩悶あれば夢多し、是れ雜夢なり、然して神夢は凡俗にあるに非ずして偉人にあり、靈夢また容易に夢むこと能はず、余は今理想の夢に驅られて轆轆しつゝあり、吁、永きは塵世五十年の夢なる哉。

▲選者曰　簡にして佳

○はれ〳〵と長閑なる日の汐干狩こゝろも廣くなるかとぞ思ふ　東京　小島幹子

○汐干狩をとめの袖のなかき日をうさわすれ貝拾ふうれしさ　東京　瓜生保子

○さくら貝梅の花貝籠にみちてうれしさあまる汐干狩かな　山形　阿部さゐ子

○櫻貝ひろひて遊ふはまへにはなと春の日の暮れやすきかも　京都　渡邊豐子

○梓ゆみはるのやよひにひく汐のはまへ賑はふ鎌倉のさと　茨城　綿引馨子

○波の花ちりゆくあとの櫻貝拾ふ霞の海の長閑さ　北海道　西久子

○長閑なる汐干に出てあさるまはよなうみとしも思はさりけり　山口　吉田みつえ

○汐干潟貝とる蜑のよひ聲も霞みて遠し春の夕暮　山口　國佐睿子

○浦の名の霞をわけてあさるらし汐干につとふ春のもろ人　岡山　武田須磨子

○さくら貝梅の花貝かす〳〵を拾ふも嬉し今日の汐干に　同　辻まさ子

○貝拾ふ人のみつとふ汐干潟浪はいつこにひそむなるらん　大阪　富永才子

○きのふけふ人の心をひく汐にかひある浦そ賑はひにける　鳥取　近藤靜子

○のとかなる春の濱邊の汐干狩うき世をよそにわすれ貝かな　東京　岩井壽美子

○春風に袂ふかせて磯つたひ蛤あさるけふのたのしさ　東京　鈴木菊子

○大海の廣き心になりにけりうき忘貝さはに拾ひて　群馬　伏島たき子

○櫻貝拾ふをとめの袖にたも霞そにほふけふの長閑さ　岡山　寺松まさ子

○住吉の浦の松風音たえて汐干狩する聲そ賑はふ　兵庫　下岡松枝

○思ふとち波も靜けき海はらに汐干狩せしけふのたのしさ　富山　草野柳子

○をとめ子はかたみに數をかそへつゝ貝あさるなり品川の沖　東京　長瀨鈴子

○花ならて名もなつかしの櫻貝たのしき數を拾ひあつめん　愛知　平松いと子

○うちむれて汐干かりするをとめ子か拾ふ小貝の數も盡きせし　靜岡　青木絹子

○春風に袂ふかして磯つたひ小貝拾へるけふのたのしさ　東京　白田はつ子

○海士ならぬ都をとめも今日はかり暮るもしらて遊ふ沖つへ　京都　磯谷澪子

○貝拾ふをとめの聲そとよむなる沖の干潟に汐みちくらし　山口　末田良節子

○をとめ子の赤きもすそも打霞み汐の干かたに貝拾ふ見ゆ　埼玉　山崎匡子

○汐干狩おいも若きも打むれて春の濱へに遊ふのとけさ　京都　金澤收子

浦月子氏

募集短文和歌欄に於て、常に高點を占め居られ候同氏は、今回弊紙の特別寄書家に推薦致し候、我等はこの欄より能文の閨秀を特別寄書家に推薦したるを喜び申候、尙ほ我等は文筆に忠實なる本欄の諸姉を、特別寄書家に推薦するの日の速かに至らんことを祈る者に候

○嬉しさのあふれ〳〵し聲すなり汐干の濱につとふをとめ子　埼玉　水野淑子

○汐干狩こゝにかしこに打むれて里のをとめか貝あさる見ゆ　茨城　綿引節子

○磯きはに船のりすてゝもろ人は沖の干潟に貝あさるなり　東京　北村霞子

○長閑なるかきりや今日の汐干狩拾ひし貝に富士をうつして　兵庫　和田きさと子

○河口にもやひし船のあさひらき潮きゆく沖に汐干かるらん　東京　三宅ひさ子

○海士の子か日ころのうきも忘貝拾ひつすてつ浦の汐干に　函館　神尾登女子

○あくかれてむらかり出ろうかれめの拾ふも嬉しうさ忘貝　岡山　貝原壽惠子

○貝拾ふをとめのむれも賑はしえものや多きけふの濱へに　長野　高橋きよ子

○　兵庫　清原千代子

潮々に笑ふをとめの聲みちてたのしきけふの汐干狩かな　福島　伊藤靜子

○眞白なる脛もあらはにをとめ子か汐干に貝そあさりけるかな　函館　佐藤かつ子

○濱風に輕ふ吹かるゝ袖か浦汐干賑はしをとめこのむれ　靜岡　萩原さた子

○波たちし人の心もしつまりて汐干に遊ふきのふけふかな　石川　新田暉子

○明かに治まる御代を歌ひつゝ貝拾ひするけふの長閑さ　東京　五藤敏子

○歌ひつゝあさりありきのをとめ子かかはゆき髮にわたる汐風　埼玉　森田竹子

○櫻貝籠を溢るまて拾ひけりをとめの群に打交りつゝ

天　簾巻く間もなかりけり時鳥　愛知　市橋幾子

地　時鳥忠碑は高く苔青し　東京　伊庭政子

人　時鳥富士をのこして明けにけり　東京　柿崎瀧子

窓よりも雲湧く家やほとゝきす　青森　清水あき子
陸奧は未だ花ならん不如歸　兵庫　和田きさと
時鳥なくや男士の塚の上　弘前　しゑ女
靖國の御魂に啼くか不如歸　東京　六郷公子
夜讀する果報や耳に不如歸　東京　大澤幸子
山と川よい友も居りて不如歸　函館　本田かつ子
溫泉源りの中に聲あり不如歸　函館　小林榮代子
時鳥五條の橋を筋違に　東京　河村仁節子
不如歸鳴くや一夜に詩百首　東京　岩井壽美
時鳥笠傾けし法師かな　埼玉　水野淑子
今鳴くは森のあたりか時鳥　群馬　伏島たき子
部までて何故出た不如歸　東京　加藤清子
小諸や駒形月夜時鳥　函館　佐藤かつ子
有明の月入る方や時鳥　山形　阿部さゐ子
靈もよい乘や月の時鳥　東京　鈴木菊枝子
古戰場吊ひなくか時鳥　青森　中田竹子
島見へる磯の月夜や時鳥　東京　押田琴子
蓄音器に入れて聞かはや時鳥　東京　平井千賀子
聲聞いての姿を夢に時鳥　富山　草野柳子
不如歸隣りの畑へ種蒔く夜　札幌　石田喜留子
二こゝの月かゝすむか時鳥　東京　三宅久子
かこの春に二人はきかす時鳥　橫濱　木村みち子
山吹のちりくる夜半や時鳥　大阪　富永才子
山曉か卯の花田や時鳥　埼玉　森田竹子
澄み渡る都の空や時鳥　靜岡　松下乙子
不如歸聲橫たふや水の上　東京　田中絹子
一聲はそれかあらぬか時鳥　京都　磯谷澪子
時鳥なくや月夜の獨旅　茨城　綿引馨子
月落て一聲殘る時鳥　千葉　清宮榮八子

▲投稿規定▼

一、原稿は明瞭に認められたき事
一、短文、和歌、俳句は夫れ〳〵別紙に認める事
一、和歌、俳句は相成べく葉書に認められたき事
一、一封書又は一葉書中へ連名にて原稿を同居されぬやう致したき事
一、原稿には必ず住所姓名を明記せられたき事
一、締切期日以後に投稿さるゝ方尠からず、右は甚だ迷惑に存じ候まゝ期日を堅く守られたき事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

創立　明治廿年七月
資本　金五百萬圓

東京火災保險株式會社

東京市日本橋南詰
本店電話
本局五八〇番・本局七八五五番
本局二七三〇番・本局二九八〇番

資本金千八百萬圓

東京京橋區木挽町
株式會社 **十五銀行**
電話新橋 三三〇番 一五三〇番 一九三三番

同日本橋區新乘物町
同 **日本橋支店**
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番

一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日步七厘以下
一特別當座預金 同 壹厘錢

半ゑり帯揚類
有色友僊 刺縫絞り
○春季用ショール 都花織 縮緬刺縫 旭織
○新柄染模様 帯片帯丸帯 博多織下〆
○季節向裾模様け出し地腰巻 絞り兵兒帯地
○襦袢袖地御男女方本染形 紅入色無地の類
○有功 すゞめ形 ゑり治形 紀念形まげ入
○受賞
春季節新柄有限取揃
新橋竹川町十二 電話新橋二〇二七 ゑり治本店
神田表神保町壹 電話本局九五二番 ゑり治支店
新橋際 博品館內階下 ゑり治出店

御花見用御履物
新案御婦人用
都草履 金壹圓五十錢以上
千代田草履
江戸子草履
元祿草履
二十世紀新案 男女シユス
形表附
一市內ハ電話ニテ御注文次第直ニ店員伺可申候
一地方ノ御注文ハ引換小包ヲ以テ御送附可申候
東京淺草茅町（電話下谷壹壹九貳）
香取屋本店

製造販賣元祖
絹綿 ハンカチーフ
和染 船來 **風呂敷類**
タヲル、敷布
尚御誂印入石版銅版寫眞入等應御好何程多數にても迅速調製上納仕候
東京市日本橋區元濱町
高橋政右衛門（電話浪花九百拾八番）

鹿歯磨は
煉と粉の二種あり
本品の特色は歯牙の保全と口中の爽快
東京馬喰町 本舖
東京花王石鹼
長瀨富郎
電話浪花三番

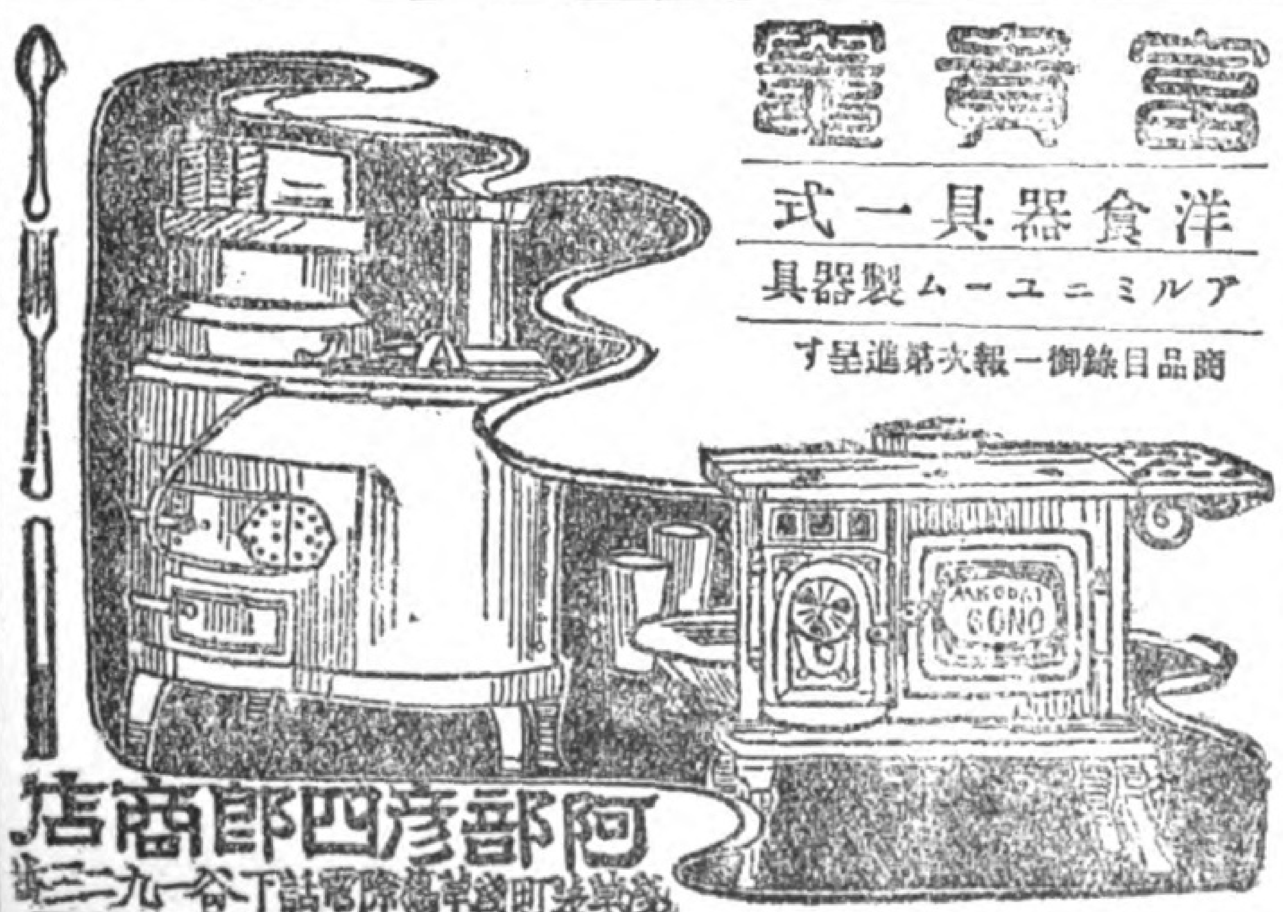
島田三郎先生序話
菊地松堂君編著
丙午の迷信
實價十三錢郵稅二錢
かなつき。棚橋絢子女史。三輪田眞佐子女史。島田蕃根翁。根本通明氏。井上圓了氏等の丙午に就ての高說を加へたり。
發賣所　東京本郷四丁目五　**文明堂**

女學通信教授
●本會は伏見若宮妃殿下を名譽總裁に戴き鍋島侯爵夫人會長として會務を統監す
●小學卒業後進んで高等女學校に入學し難き事情ある女子達は本會の通信敎授に依て家庭に居ながら必須の學科を修められよ
●本會發行の講義錄は高等女學校の科目よりも一層多數の諸學科を網羅し第一流の名家を擇びて講義を囑托せるものなり
●本會は高等簡易の兩科を設け女子素養程度に應ぜしむ月謝は高等科四拾錢簡易科二十錢とす目下入會に都合よし會則は葉書か電話にて請求あれ（電話番町一三三〇）
東京市麴町區下二番町三七 **大日本女學會**

●**活動寫眞器械**
○最新式上等器械金百八十圓○甲號付器械百卅圓○乙號器械六十五圓○幻燈取付用器械のみ金三十圓○卷取
二月十九日コンノート殿下横濱御上陸○同殿下御覽大名行列○第二回陸軍大歡迎會及同園遊會○各司令官の凱旋○東京大相撲○筑波艦進水式○旅順攻圍軍實地寫眞○安藝の宮島○耶馬溪等三百五十餘種
●**同フィルム各種**
○アセチリン瓦斯幻燈廿二圓より四十二圓迄○改良五本燈幻燈卅圓○同四本燈廿圓迄○三本燈十圓其他數十種
●**幻燈及映畫**
右第十五版圖入定價表（百四十二ページ）は郵稅四錢御送り次第進呈す
（電話特新橋三百七十八番）
東京新橋詰 **吉澤商店**
●平圓盤及蠟管 **大聲發音器**及レコード各種輸入
○圖入定價表は御報知次第進呈す

ちくまみそ
東京深川區佐賀町
電話浪花一三〇三
各地味噌醬油問屋
味噌釀造業
乳熊屋
竹口作兵衛

●**開店御披露**
現今造花の流行日增に盛大と相成隨て原料の撰擇には最も苦心經營漸く適良なる品を發見し最も廉價に各位の御需に可應候間何卒陸續御注文之程偏に奉願上候
最新流行和洋造花類
装飾用造花並花籠類
優等最新 **リボン各種高等化粧品類小間物各種**
三月廿四日ヨリ當分粗景呈上仕候
本郷區本郷貳丁目貳拾六番地
宮部造花店



洋食器具一式
アルミニユーム製器具
商品目錄御一報次第進呈す
阿部彦四郎商店
淺草茅町橋際電話下谷一九一二番
輕便料理ストープ
許 一名改良テンピ
和洋割烹兼用
和洋の料理に完全に好適なる便利ストーブにて用ひ易く料理に經濟なり
定價小 四圓五拾錢
大 六圓

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

◉平民的の女王殿下　京都市竹間尋常高等小學校御在學中なる賀陽宮由紀子女王殿下には毎學年とも優等の成績にて御進級あらせられ本年は愈々尋常科卒業と云ふ間際に至り殆んど三ヶ月に渡る御大患に罹らせられし爲本年の御卒業或は覺束なからんと危ぶまれけるに御運好く御全癒となり良好の成績にて首尾よく御卒業遊ばされしは御聰明の御性ながら平素の御勉學の程も推されて殿も長く思はるゝなり扨去る卅一日の卒業式濟み次第殿下には京都第一高等小學校に御進入と事定りしより賀陽宮家令小藤孝行氏は同校に赴きて南大路校長を訪ひ殿下御進入の儀を申入れたるより校長は程なく宮邸に出頭し殿下御進入の一事洵に本校無上の光榮なれど校費の制限に餘儀なくされ殿下に對する殿備届き難ければと精しく事情を陳じ如何にせんかと謀りたり然るに宮邸にては甚だ無造作なものにて然る心遣ひは一向に無用なり生徒となりて育てらるゝに貴賤の差別あるべきや月謝なども直接女王に命ずべく又衣服等も能ふ限り質素にせよと教へられたしとの挨拶なりしかば校長も大いに悳ひ安んじ然らば及ばずながら御教育申すべしと御請して退出したる由なるが殿下の御進入は四月九日と確定し學校にては階上來賓室の一部に屏風を立てゝ御休憩所となし椅子火鉢等は竹間小學校にて御使用の物を移せる外普通の生徒と異なる事なく職員も生徒も單に「宮樣」と申上ぐる事に定めたりと云ふ又殿下の弟君なる恒憲王殿下には六年四ヶ月にならせられたるより本年より竹間小學校に御入學の事と決したり

◉二葉幼稚園　麹町區土手三番町にありし二葉幼稚園は貧民の兒童を教育するの目的を以て場所を貧民窟なる四谷鮫ヶ橋に移し授業を開始せしが目下生徒數四十餘名にして貧民の子弟なれば殊に衛生上にも注意を爲し浴場を設け入浴せしむる等懇切を究むると云ふ

◉少年動物愛護會　去月廿四日本郷中央會堂に於て第一回を開かれたり來會者は小學生徒が重なる部分を占め五百餘名に絶したりしが頓てロイド博士巖谷小波向軍治高島平三郎其他諸氏の趣味ある講話及び會員の合唱等ありて頗る盛會なりし

◉牛込授産會の披露　牛込區軍人家族授産婦人會にては去月廿五日小石川後樂園に於て贊助員等を招待し事業の成蹟現況及び將來の希望等を披露せり

◉慈善演藝會　牛込區に於ては凶作地方寄付の爲め去月廿九日より三日間慈善演藝會を開きたり

◉樂媛會演奏　女子音樂學校は來四月一日卒業證書授與式擧行の後同窓會並に生徒の組織せる樂媛會の演奏會を催す由なり

◉日比谷公園の音樂堂　隙て改築中なりし日比谷公園音樂堂は土木漸く工を竣へ去月中に落成の見込なるが新傍聽席は奏樂堂を圍みて四方に擴がり漸次後高に勾配をつけ周圍に樹木を植ゑて音の反響を扶け一面に砂利を敷詰めてベンチを排列し傍聽者は優に千人を容るゝに足る由にて來四月七日の土曜日には演奏の運びに至るべく時正に花紅緑の好季節に入れば昨秋開堂式當日の賑ひにも增して一層の盛況を見ることならんと云ふ

◉女子高等師範學校　第十七回卒業式を去月卅日擧行したり今回の卒業生は文科廿九名理科拾六名技藝科廿四名にして新任文部大臣牧野伸顯氏は特に此式に列し祝辭を朗讀したる後ち簡單なる演說を爲したり其要旨は自分が元と文部省に奉職せし時此校の卒業式に臨席したる頃は生徒卒業生合して卅名内外に過ぎざりしが今日は高等教育を受けて卒業するもの如斯多數に至りしは女子教育の爲めに祝す可きである卒業後と雖も常に學校との連絡を計り且つ身體を壯健にする事に重きを置く可し其工風は常によく働くにある旨を陳べられたり

◉女子美術學校　三月卅日卒業式を擧行せり

◉華族女學校　四月二日卒業式を擧行せり

◉成女學校　四月三日卒業式を擧行せり

◉私立高等女學校　四月一日卒業式を擧行せり

◉女子音樂學校　四月一日卒業式を擧行後演奏會を開きたり

◉實踐女學校　四月一日卒業證書授與式擧行せり

◉東京音樂學校卒業式　東京音樂學校にては去廿八日午後三時より甲種師範科及び選科の卒業式を擧行したるが高嶺校長は生憎病氣なりし爲め富尾木副校長代つて報告をなし繼いで甲種師範科十四名選科三名の卒業生の證書を授與し夫より校長の祝辭（副校長代讀）文部大臣の祝辭（明石秘書官代讀）卒業生總代草川宣雄の謝辭朗讀ありて第二部合奏に移り漸次演了し最後の一曲（甲種師範科卒業生及び生徒合唱）にはケーベルユンケルの二教授幸田女史も登壇してメンデルソンの作曲轣轆麤々の雄壯なる合唱あり終て散會したるは五時頃なりき尾木副校長報告の要を摘記すれば同校は甲種師範科設以來五十餘名の卒業生を出し何れも皆中等教育に從事し居れるが尚ほ音樂教育の發展に伴ひ教員の需用益々增加し來れるは我音樂界の爲めに喜ぶべき現象なり而して本年卒業生の昨年に比して斯く少數なるは戰後諸事業の膨脹に基因する事なるべく而かも來學期の入學志願者は頗る多きを以て各府縣知事の推薦者中より拔適精選する筈又同校の官費生は從來三十名なりしを來學期より六十名に增加したりと云へり卒業生の姓名は左の如し

（甲種師範科）小串信太郎、岡部セイ、大槻貞一、大島常治、草川宣雄、八木原道三、松岡保、淺尾ハツ子、木村キセエ、三島カチエ、島村藤尾、島津チカ、平林タミ、鈴木寧野（選科）山崎謙太郎（オルガン）萩原八重、關ソノ（以上箏）

◉英國婦人の藍綬褒賞　英國人ミニ、ハンナ、リアル孃は明治廿三年本邦に渡來し慈善事業に盡力したるの廉を以て今回左の如く藍綬褒賞を賜りたり

夙に慈善事業に志厚く明治三十三年英國傳道會社の囑を受け本邦に渡來し偶々熊本市本妙寺に遊び路傍に乞丐せる癩病患者多數あるを見て惨然として惻隱の心を起し遂に之れが救濟を企圖し爾來百難を排し資金を募り經營數歲終に熊本回春病院を創め專ら社の囑託を辭し專ら力を維持擴張に竭し已に其の患者を收容するもの八十名財を致すこと五万餘圓又出張所を設け施療せしもの前後四百餘人の多きに及ぶ其成績著明なりとす仍て明治十四年十二月七日勅定の藍綬褒章を贈與し其の善行を表彰す

◉英國婦人の賞狀　麻布一本松十九番地に住む英國人カオルトン夫人は夫も子も軍人となり其身一人七年前本邦に渡來して常に公共事業に資を投じ殊に日露戰爭の當時は人知れず出征家族を慰問し現に區役所にて扱ひたる寄贈金のみにても數千圓に上りたるよしなるが過日賞勳局より銀盃幷に賞狀を下附せられたりと云ふ

◉手も足もない兒　東京帝國大學醫科大學附屬小兒科室に收容しある畸形兒は三歲の男の兒にて栃木縣の生れにて名を與三郎と云ひ容貌は寧ろ愛らしき方なるが不幸にも生來兩手兩足を有せず記者の實見する處によれば右手は二の腕の中央より左は一の腕の末より又兩足は共に太股の三分の一程よりなく摑む事も立つ事も出來ず何等の運動をも爲し得ざるが内臓は頗る健全にして智識もいと英敏にして看護婦なぞの足踏をよく聞別け抱かるゝ事を要求する有樣いとあはれなれば弘田博士も大に愛護し居ると云ふ

◉都足袋と清涼足袋　日本橋室町三丁目龜屋足袋店宮内清兵衛より販賣の都足袋「粹の友」は踵部に縫目なく外觀優美衣服の裾を傷ふとなく又清涼足袋は最新流行品にて清涼的に製作し時節柄非常に適切に價格も又低廉なるを以て大に實行よき由

愛國婦人記者手島益雄著　**婦人の慰問使**　好評第四版　一部金拾錢

記事の一節

▲二〇三高地　最初自分が綱を付けて刀自を引揚げる計畫であつたが、來て見れば夫には及ばぬ、刀自と吾輩とは西洋人が夫婦づれで步行する時のやうに腕を組合して、杖を右の力として休み〳〵遂に登つた旅順攻擊で一番多く戰死したのは此處である、所謂る人の山を築き血の海を流したのであるが、今尙血腥き風が吹いて居る、刀自は熱心なる祈禱を捧げられた、天然はこの慘狀を速かに回復せんと力めて居る、野には秋草が生へて屍の上を飾つて居る、桔梗、刈萱、女郎花なぞが咲亂れ、蟋蟀は我衣の袖隱れに鳴きすだいて居る、露は遺族の涙であらう、草から登つて一行の袂を濡らし、把輪は一行婦人の袴に縋り、今暫しと引留めるやうである、刀自の叩く鐘の音が此戰場の秋を一層深めて來た、婦人の纖い腕で拔かれた秋草は乃木保典氏の墓に供ぜられた婦人と古戰場、嗚呼好個の詩題ではあるまいか、古人句あり　無殘やな兜の下のきり〳〵す

愛國婦人發行所

婦人案内

▲行數は五號活字三行限　▲廣告料は一回金三十錢

◉求妻　高等工業學校卒業現某商店勤務齡廿八身の丈五尺七寸五分身の丈五尺二寸以上の妻を求む寫眞履歷送れ（私書函第一號）

◉求婚　東京音樂學校卒業年齡廿四歲月收入三十圓相當なる資格者に嫁し度し（私書函第二號）

◉求妻　地方中學校長老母と飼鳥あり家裕ならざるも無負債社會教育に盡さんとする同志婦人を求む寫眞履歷送れ（私書函第三號）

◉求妻　知人文學者富裕ならざるも貧しき生活は爲さず年卅二、無係累、文學趣味ある初婚婦人を望む寫眞履歷送れ（私書函第四號）

爲になると第一　面白きこと第一

婦人世界

四月三日發行　第四號　月一回一冊拾九錢郵税一錢五厘半年分郵税共九十錢一年分一冊七拾五錢

口繪　◎東伏見宮妃殿下と御揮毫の書　◎梨本宮妃殿下並に同姫宮殿下　◎前田家婚儀◎名流婦人の面影　◎御室の花（中澤弘光）彩色石版　◎小猫と小犬のたはむれ彩色石版

繪手本　△跡見女史彩筆　△中澤弘光彩筆

文藝　淸き名（橘村）花がたみ（星外）小窓（柴舟）

▲女學校卒業生に對する希望（下田山脇三宅三女史）

育兒問答（解答）　衛生問答（親切）

△新婚旅行の改良案（村井弦齋）

▲我家の今昔（三輪田女史）

△千家男爵家の家風…ぎんせん

▲家庭園藝…農學士 恩田鐵彌

△西洋諸國嫁入道具…

▲媒酌人の改良（中橋德五郎）

△井口あぐり女史面影

▲ビスケットの製法　馬鈴子

△牛乳と人乳…農學士 牧忍

▲生花のシオリ…花の本宗壽

△家庭菓子製法…（便利）

▲一門九博士の家庭…

△妻君重寶記（岡本瀛陽）

▲乳母に就ての注意（加藤照麿）

▲小收入の家庭を修むる法　藤崎つね子

▲婦人の衛生（伊庭學士）

△鍋島侯爵夫人の平生…胡蝶

▲現代の歌　與謝野晶子

△活動…女子高等師範教諭 平野後子

▲學校出身夫人調べ　こてふ

△家庭笑話

▲女學生遭難記

△家庭整理法　今西桃里

▲東京女學館入學案内（峽水）

△家庭季節料理　赤堀峯吉

▲御園形改良服　御園生初子

△淸國婦人化粧法　あさひ子

▲新流行肩掛と手套（三越）

△（小說）團欒　三島霜川

▲懸賞讀者文藝…

東京京橋南紺屋町十二　實業之日本社　電話新橋七八四　賣捌各地書店

新小說

第十一年第四卷　四月一日發行

名 越川……小栗風葉

妻 千鳥……山岸荷葉

悲劇 海 少女……昇曙夢

旗の色……田口掬汀

公平天狗問答……右田寅彦

國際と評論と小說と……畔柳芥舟

ニチエガライ研究……小山內薫

思想界の危機……吉田賢龍

早春の六日……薄田泣菫

京傳の世方……錦隣子

草堂日記……吉野臥城

櫻花……前田曙山

平路……柳川春葉

宗教を談ずる青年に薦む……島村抱月

小曲拾章……後藤宙外

家庭の事……薄田泣菫

琴を學ぶの可否……三宅雪嶺氏夫人談

「いき」といふ事……石原醫學士

大通偏痴氣論……依田學海

活動し來れる劇壇……右田寅彦

歌舞伎と本郷座……伊原青々園

朝鮮の俗裡……山岸荷葉

小笠原島……西村文則　山方香峯

實價　一冊二十五錢郵税二錢五厘　六冊前金郵税共一圓五十九錢　▲郵券代用一割增

東京　春陽堂　日本橋

●二十世紀の婦人諸姉に告ぐ！

實地活用　**柔術極意**

通信教授速成會員募集　本會が永年苦心慘憺の結果案出したる方法に依り三週間にて達人となるを保證す

●規則書郵券二錢送れ　東京市下谷區龍泉寺町　帝國尚武會

日本美術女學校生徒募集

●和洋裁縫、造花、摘み、袋物、刺繡、編物、果實、壜細工、新學期四月一日より開始す●來る廿六日より向廿日間晝夜に分ち臨時講習會を開く

●造花科通信教授す（規則書は二錢見本は十錢要す）

東京市神田區西小川町二ノ二　日本美術女學校　裁縫主任教授 加藤嘉兵衛　校長 山田典松

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女俳優マダム川上貞奴　西洋みやげ

ヤッコ

佛國巴里シャルコー病院ドクトルベルガー先生發明

此「ヤッコ」にて顏を洗へば西洋早化粧ゆへ日本流の薄化粧をせずとも顏をきれゐにし常に用ひれば白色人種の如く色を白く艶を出し顏の小皺をのばし皮膚を滑にあらすことなく白粉のつきをよくす論より證據皆さん洗つて鏡を見よ

●定價一鑵廿錢全國送貨四錢三鑵美麗函入五十五錢同送貨十錢（此箱入には西洋男女化粧法の秘傳をくわしく書たる英本を添ゆ）

カール

此「カール」は佛國一流の女俳優「サラベルナ孃」愛用の毛發劑にして第一毛を生し、毛を良くし毛をフックリとしてくせと縮毛を直す、油を代用し毛のねばりとよごれを取りサラ〳〵として衣類をよごさず束髮婦人下げ髮の令孃方には無くつてならぬ發明品、島田、丸まげにはびんたぼを……フックリさせ髮形をよくすること妙●●定價七袋分入廿二錢全國送貨四錢三袋入十二錢一袋入五錢同送貨二錢

東京神田區錦町代町九番地　ヤツコカール日本一手發賣元　地球堂　田中丹治

●ヤツコ●カールとも全國有名小間物店賣藥店に有之若し無くば代價へ送貨を添へ御注文あれば直送す

電話四千百三十九番

京橋銀座一丁目　米村屋

○銀側兩蓋之部　流行薄手形

價八圓半　瑞西石入向爪アンクル
價十圓半　同鍍石卷上向アンクル
價十三圓半　同眞三枚蓋石卷上向爪
價十四圓　米國中蓋付切天武向爪
價十七圓半　米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部　流行薄手形

價三十三圓　瑞西國十八金側御婦人持
價六十九圓　瑞西十八金製中形紳士持
價七十九圓　米國製十八金中形紳士持
價九十五圓　瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓　米國製18金形18紳士持

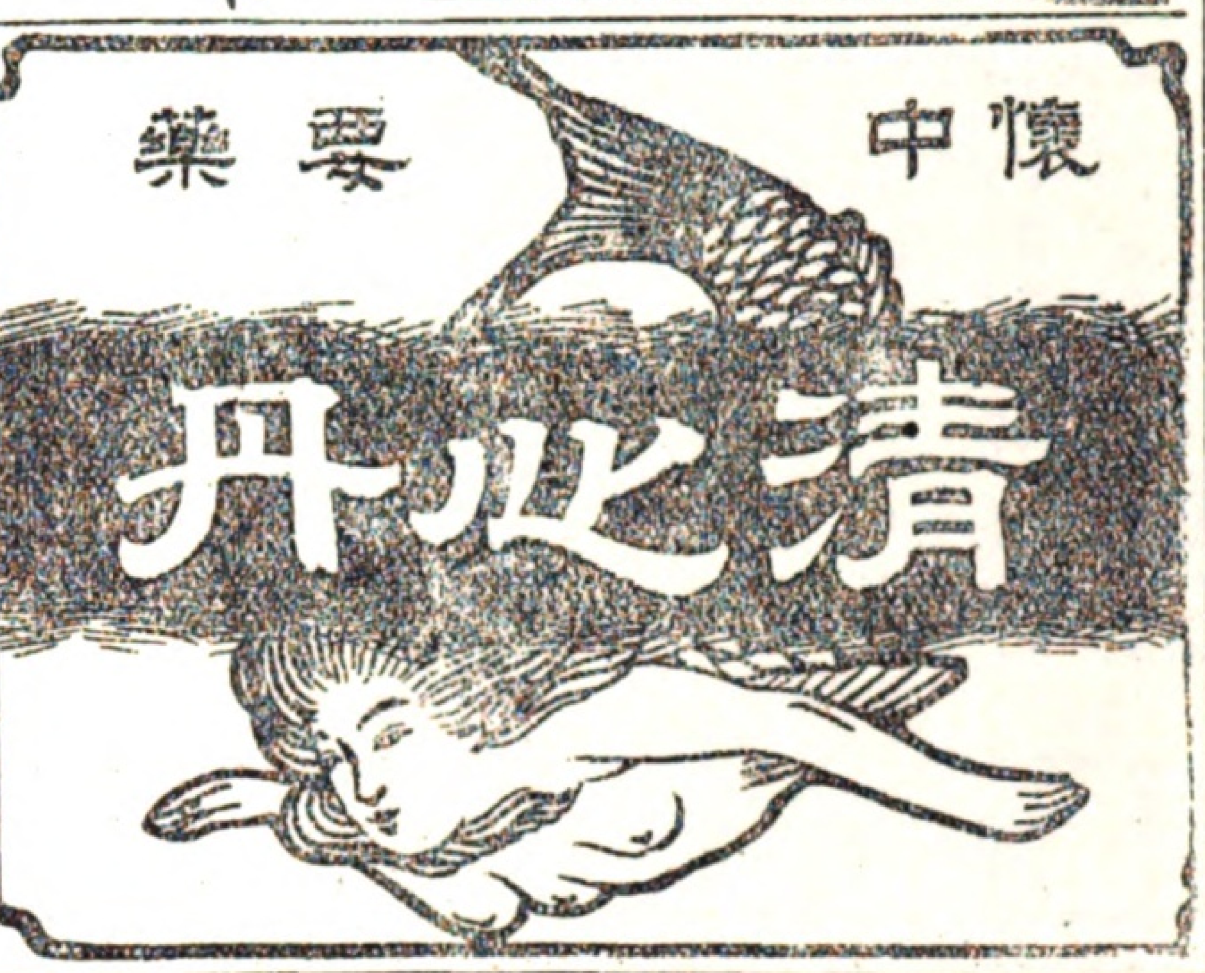
商品案内無代進呈

東京市京橋區銀座一丁目　電話新橋（二三三一）

伊勢伊時計店

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社　第三銀行
電話（特）浪花四一二番　浪花四五一番

定期預金　六ヶ月以上　年六分
當座預金　日步壹錢
別口當座　同日步壹錢貳厘
全國送金手數料



新聞の新聞

◉時事新報　清國人が文明の學問を學ばんとするの思想は男子のみに止まらずして女子までに及べり而して我國婦人にして清國に傭聘せられたる者十餘名の多きに達し今後續々傭聘せらるゝの見込を以て女子教育家を養成する學校さへ建てらるゝに至れり今や我國一般の海外思想甚だ幼稚にして外國に渡航し相當の職業を求むる如き屈强の男子さへも容易に思ひ立つもの少き場合に女子の身を以て外國に傭聘せらるゝもの續々輩出するが如きは寧ろ意外のことにして是等女流教育家の意氣の種を感ずると同時に其壯擧の影響する處少々ならざる可きを信ず

◉日本　帝國圖書館は落成せり圖書館として世界最新式なる者の一なり藏書約三十萬卷必しも少しとせずされど英國博物館附屬圖書館は二百萬露國は一百萬獨逸は一百萬等册數の多きのみならず又た貴重品を競ふの跡あり之れ等に比較して日本は如何且つ近昔寺院に金品を寄附せしが如く今は學校及び圖書館に寄附するもの多く其最も著しきは北米合衆國にして寄附總計一億二千萬中三分一はカネギー氏の分なり如斯は全て及ばざるも新興國たる日本帝國々民の過去及び現在の思想を貯蔵し併て世界の思想を集め併せて二大戰役の紀念に供するに僅かに三十二萬圓の家を以てす以て[illegible]たるを得べきか

◉每日新聞　本年一月我政府は英國婦人ハンナ、リデル孃に藍綬章を授與して其救濟の擧行を表彰せり孃は明治二十三年本邦に渡來し熊本本妙寺に遊び路傍の癩病者多數あるを見て惻隱の心を起し終に回春病院を創め患者を收容する八十六名財を投ず事五萬餘圓施療せしもの四百餘人に及ぶと云ふ而て其病院資の大部分は英國有志の寄付金によれり其他二三の癩病院は皆外人の手に於て經營せられ日本人の經營にかゝるもの一もなし而して其患者の數は萬國無比と云ふ然るに國立病院さへなきは慈善の點より見るも國家の羞辱にあらずや幸に議會にも問題となりたれば帝國の名譽の爲め此缺點を補はん事を望む

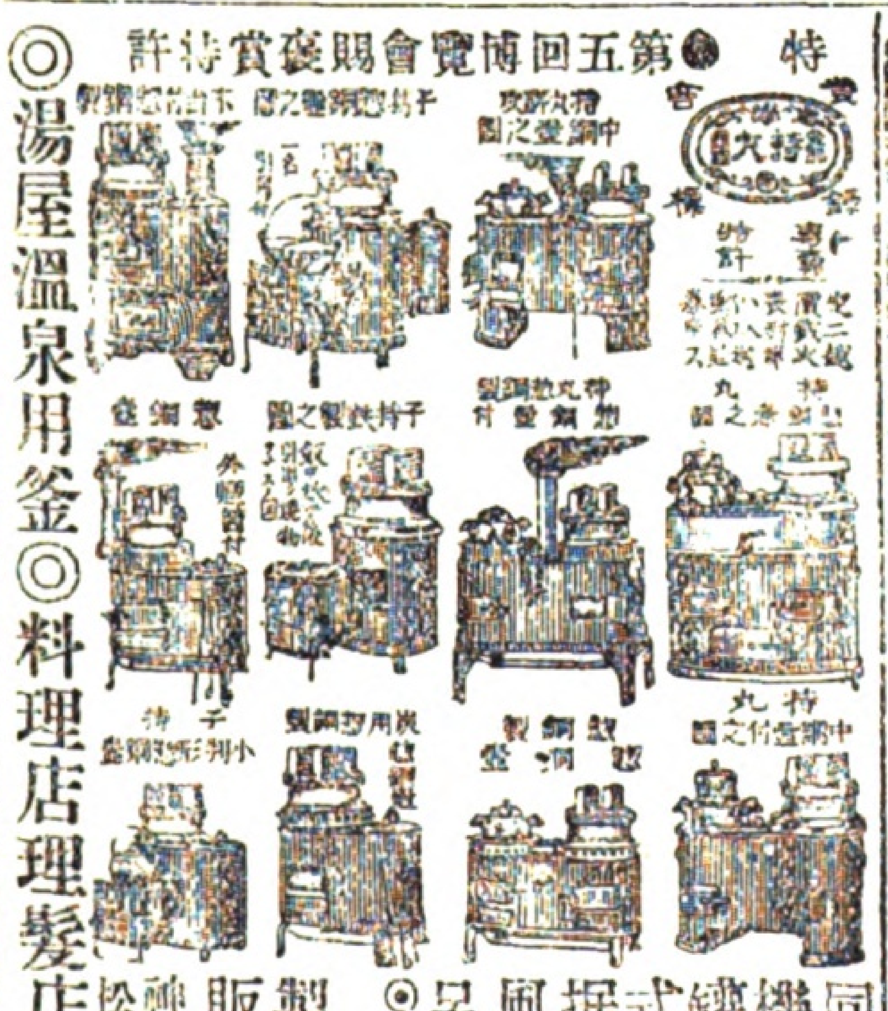
◉報知新聞　貴族院は專門の學者又は或る事業の老練家あり隨つて其討議す可き條件に關する研究は稍や詳密を極む之に反して衆議院亦た學者なきにあらざるも一般の空氣は志士的なるに現下の衆議院は其粗放にして事務的眼光の乏しきは依然舊態を改めずして其實論を主張するに於て剛健の意氣を缺ぐ甚だしく私利之れ趁ふの亡狀を呈すこれ其精神の復活を圖らざる可からず貴族院の調査は其資料を多く政府に求むるにより自然政府案を承認するの結果を生ず之れ同院の反省を要すべき事柄なり

◉萬朝報　アルヂエシラス會議に於て獨逸は終に退步の意を示し、モロッコ問題も遠からずして落着を見んとす之は寧ろ當然の結果なり、露國迄まで佛國に左袒し、墺伊も亦争ひを好まず佛國の主張を贊助するに於ては、獨逸は勢ひ孤立の地位に置かるゝものにして如何に其主張を貫徹せんとするも到底爲し能はざることなり、而も吾人は事の玆に至りたるを慶せざるを得ず

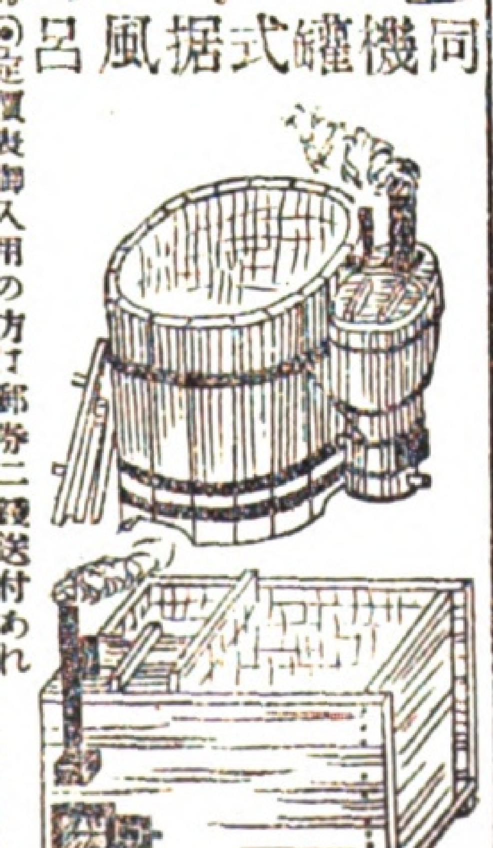
◉二六新聞　神社の將來と題して論じて曰く、府縣社以下の神社、果して維持保存せざるべからざる乎、固より其方法を確立せざるべからず、然れども苟も神社の維持保存方法を確立せんと欲せば、須らく先づ神社の分合存廢を斷行し、其維持保存すべきものと、然らざるものとを區分せざるべからず、神社中或は不要のものあらざるべし、然れども交通の便否に關りたる今日に在りては、必らずしも同一神體の幾多神社を併立すべき必要あらざるべし、之を分合する、幣帛供進の先決問題に非ずや

特許　第五回博覧會褒賞特許

◎湯屋温泉用釜◎料理店理髮店用湯風呂◎豆腐箱



同機罐式据風呂



◎定價表御入用の方は郵券二錢送付あれ

製造　販賣元　日本橋區蠣殻町二丁目十五番地　名和商店　電話浪花千百二十七番

神田區和泉橋通松永町十八番地　名和支店

扇　おり紙　帯しめ

御用命の節は一報次第に伺仕候

信竹組本舗

補血良劑

ワムポール無味肝油

補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飲用に適する香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目　合名會社島久商店　電話本局特四九一　電話本局三〇一八

子宮病　血の道　さん前　産後　のぼせ　頭痛　腰足冷込　下腹痛み　月經不順　白血　赤血　其他婦人病　一切の特効藥

本舗　東京日本橋區通四丁目　津村順天堂
支店　大阪堺筋大寶寺町南入

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

從四位淺田宗伯先生直傳 淺田飴

たんせきに淺田飴

空腹にめし

良薬にして口に甘し

定價 金五拾錢 金參拾錢 金貳拾錢 拾錢

本品全國到る處の藥店に販賣す

本家 東京神田鍛冶町 大阪北久寶寺町 堀内伊太郎

◉前期生二百名 ◉後期生五十名 女醫學生募集

新領土の發展は益々女醫養成の必要を感ぜしむるに至れり、本校は此趨勢に應ぜん爲め此際規模を擴張し講堂を新築し來る五月一日より新學期を開始し入學を許す四月二十五日迄に願書を提出すべし

詳細の規則は郵券三錢を要す

東京市麹町區飯田町四丁目九番地

東京女醫學校事務所

美人ムスク石鹸

此全形ナキ物ハ模擬ナリ

美人ムスク白粉

輸入元 東京市日本橋區新和泉町 桑原花生堂

最上醬油 キハク印

於聖路易博覧會 名譽大賞牌受領

キハク印醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 電信略號(キハク)又(ハク)

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五十七番

TRADE MARA

春夏用ショール 雛形並合書進呈ス

フラネルセル地 見本呈ス

旅行用毛布チリヨケ外套車用膝掛種々其他

洋織物、裁縫附ケット、敷物類何なりと御座候

ツカタヤ 東京湯島切通下 電下谷一二一四

專賣 東髪用タボ 第九四五〇號

Morido

[illegible]

帝都唯一受賞袴

小町印 學生袴

御袴部 日本橋區彌生町 永井本店 電話浪花一八四二番

小賣部 神田南神保町 永井支店

生徒募集

來ル四月新學期第三年級以下募集ス

小石川柳町 跡見女學校

寶の火玉

第五博覧會三等賞受領

總銅製者德富改良桶箱風呂各種出來有 銅製改良風呂釜各大小出來有

圖面定價表御入用ノ節郵税二錢御送アレバ御返事呈ス

東京日本橋區通油町十九(電話浪花一四六番)

製造 發賣元 銅器物問屋 南部鐵瓶販賣 石川商店

代理店 京都柳馬場 森井喜助

各女學校御用

附屬品並に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地 天野卯兵衛 電話(特)浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば「愛國婦人」を見てと附記し御申越し被下度候

FORMALIN SOAP

ホルマリン石鹸

◉殺菌防腐皮膚病一切によろし

◉養蠶家手洗消毒に最もよろし

消毒專用 化粧用 洗濯用

本舗 藥種問屋 東京市日本橋區本町三丁目七番地 圓城商廛

電話本局一四四三番

特別大販賣 東京本銀町三ノ十三 仲德商店

消化新藥

工學博士高峰讓吉氏に由て發見せられたる有名なる胃腸新藥タカヂアスターゼは粉末錠劑水劑の數種として各藥店に販賣せらる

摸造品數多あり必ずタカヂアスターゼ名稱及弊店名義に乞御注意

本劑に關する說明書は御申越次第贈呈す

東京市南茅場町二番地 三共商店藥品部

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●洋酒●罐詰●洋食料品●食器具類

最上清酒

●世界長は攝州灘御影小網與八郎氏の吟釀にして數十ケ年來江湖の高評を博し尚殺菌しあれば腐敗の憂ひ毫もなく衞生上無害有効にして且又壜詰なれば日々に用量を定めて飲用せらるゝを得て攝生家及規律を尊ばる貴婦人間に最も重寶とせらるゝ處なり

壜詰　一升入　四合入　二合入の三種

取次販賣所　全國重なる洋酒罐詰商店及酒店

發賣元　東京日本橋區てりふり町通堀江町四　高橋商店　電話浪花千五百六十一番

各國帝室及ビ王家御用

ネッスレスミルクフウド

歐洲諸國及本邦名醫ノ讃辭ヲ辱フセル者ナリ小兒、病者又平素不消化ニ苦ム者ニ適當ナル最良滋養食物ナリ。

各地盛ニ藥舖洋酒食料品店ニ於テ販賣ス

◎色白く艶をだす

ホーサン石鹸

大形一個廿錢　小形一個十錢

近頃に類似物多し御購求の節は商標及松澤名義に御注意

東京本石町四丁目　芳香藥舖問屋　ムスク香水本舖　松澤常吉

●當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店にて販賣す

文學士　下田次郎氏編輯

女子教育

四月一日發行　第三卷第四號　一部金十錢

東京市神田區錦町一丁目　明治書院

四月一日より

第十一回新柄陳列會

凱旋紀念桃山式新製品陳列

寄せ切れ見切り反物大賣出し

意匠參考時代品陳列

懸賞圖案江戸褄模樣陳列

三越呉服店

東京日本橋區駿河町

◎會員大募集──四月廿日第一號發行

新學期開始

大日本淑女學會

高等女學校程度講義錄發行

▲世間があつて高等女學校に入る事の出來ない人の爲めに「女學講義錄」を發行し僅に二ケ年間に高等女學校程度の教育を完全に正則に授けます▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません、本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いようにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小説を毎號附錄とします

▲中央新聞評　▲毎日新聞評　▲二六新聞評　▲日々新聞評　▲都新聞評　▲報知新聞評　其の批評を御覽

批評一班

講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也

米國の通信教授法を參酌せるもの文字平易説明懇篤を盡くせり

高等女學校の全課程を講了すべく各講述の態度頗る着實なり

講義はすべて平易と親切とを勉めて完も無用の贅なきに似たり

講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一新の域を拓き得可し

講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀也

御覽になられば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲本會規則書▼端書にて申込あれば直に郵送す可し

東京神田南甲賀町　大日本淑女學會　電話本局三千四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋內）

日本興業銀行

電話本局　三、三〇〇番　四一一番　（特）三七番　一〇二番

一定期預金　年五分

一當座預金　日步七厘

一特別當座預金　日步一錢

東京市日本橋區通一丁目

合名會社　森村銀行

電話（特）本局六七三番

定期預金　六ヶ月以上　年五分五厘

當座預金　百圓に付日步　八厘

特別當座預金　同日步　壹錢壹厘

日本元祖　保險附

音律正確　西川風琴

金十八圓以上金二百五十圓迄　郵券二錢にて詳細目錄進呈

舶來　手風琴

澤山新荷着

金三圓廿錢　三圓半　四圓　四圓半　五圓半　六圓　六圓半　七圓半　八圓　拾圓

舶來バイオリン

金拾四圓以上　新着　金七十圓迄

舶來ハーモニカ

澤山着荷

◎凱旋歡迎　樂隊用樂器　各種廉賣

●弓箱外附屬品一式

紙腔琴　本舖　東京銀座三　十字屋

東京市日本橋區新右衛門町

第一生命保險相互會社

電話　本局一三七三　本局一七三七

スコット乳菓

咽喉諸症肺炎其他貧血病ニ着大ノ効驗アり早ク試賜ヘ

說明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号

スコット乳菓部ヘ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス

代理店横濱市山下町廿八番館

米國貿易商會

高等香油

チエリーオイル

紳士貴婦人令孃用

本品は無色透明さらくとして水の如く馥郁たる香氣は恰も香水に異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令孃方に目下大に流行せる彼の束髮用としては非常に高評を博しつゝあり

定價八十五錢、四十五錢　廿五錢（送料各十錢）

賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり

發賣元　東京日本橋區本町二丁目　高橋初次郎　特電四一三番

巴里の精粹　新荷着

●貴婦人用春夏帽子

●小兒用帽子及上衣

●キャンバース數種

●洋傘及手袋沓下類

●敷布用タオル切地

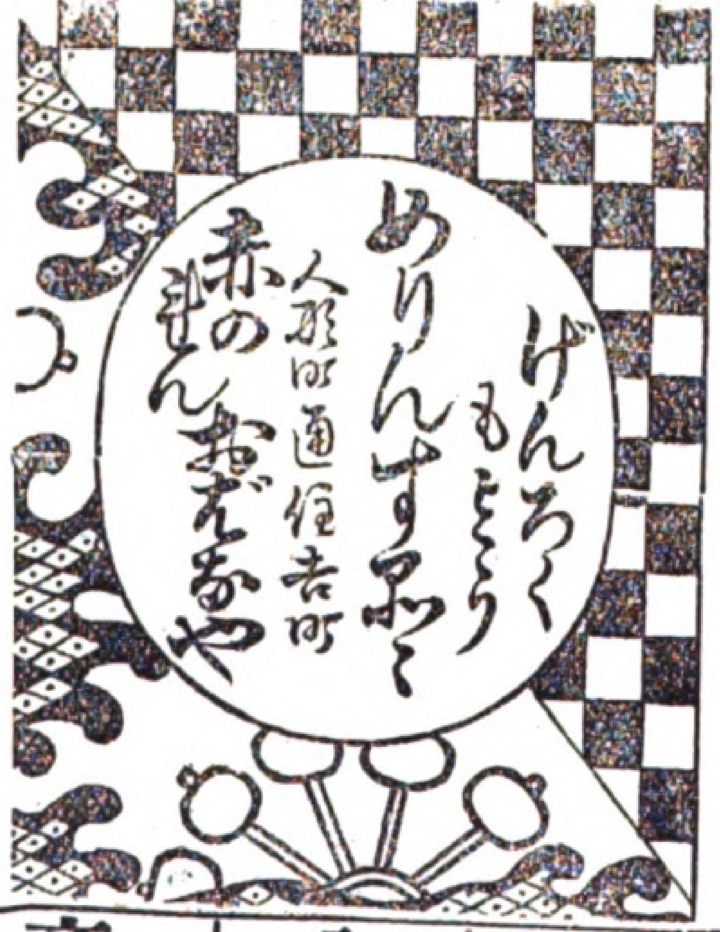
●精巧舶來人形各種

●洋花。リボン。レース。流行コム櫛。香水。石鹸。白粉其他西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目

伊勢與　三枝小賣店

電話新橋三九二七



東京日本橋區長谷川町

卸部　美濃磯本店　電話浪花二八五九番

小賣部

本郷區本郷五丁目　美濃磯本郷支店　電話下谷一四一五番

淺草區諏訪町　美濃磯淺草支店

日本橋區佐內町　美濃磯佐內町支店

神田區小川町　美濃磯神田支店

深川高ばし際　美濃磯支店

芝區新櫻田町　小田商店

牛込區神樂町一丁目　伊澤商店

四谷區傳馬町一丁目　伊澤支店

醫院案內

●産科婦人科　芝區明舟町十九番地（電話新橋三三二四）　櫻井醫院

內科小兒科特に呼吸器病　麴町はやぶさ町二十八番地　ドクトル　川瀨元九郎　電話番町八二二番

婦人科産科榊病院　院長　醫學博士　榊順次郎（毎日午前診察）　副院長　醫學士　久保德太郎（毎日夕刻診察）　東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）

鳥山內科院　院長醫學士　鳥山南壽次郎　午前診察　午後往診　京橋區鎗屋町十一番地　電話新橋千七百四十六番

小兒病診療　醫學士　內田愼太郎　淺草區福井町貳番地　宅診午前　往診午後　●電話下谷七一八番

●産科婦人科　●京橋區南鍋町一の一角　醫學士　伊庭秀榮　●朝八時より正午　●夕五時より八時

峰內科醫院　神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）　內科病特に腦脊髓神經疾患　院長　ドクトルメヂチーネ　峰秀世

山口眼科病院　東京神田錦町參丁目　電本七一五　院長　醫學士　山口秀高　診察午前午後　入院隨時

內科一般　東京神田區美土代町三丁目十七番地　午前宅診　午後往診　板垣亨　電話本局貳千九百七十番

産科婦人科　東京日本橋區濱町三丁目七番地　楠田病院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十九年四月五日發行（毎月五日二十日二回）

洗用ワツセル

◎此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◎用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脫ますシヤツの如きは（拾貳匁）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升の湯に溶解してかもじを洗う用に揉ずに除べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾貳匁入　金拾五錢　袋入二錢　六匁入　金八錢

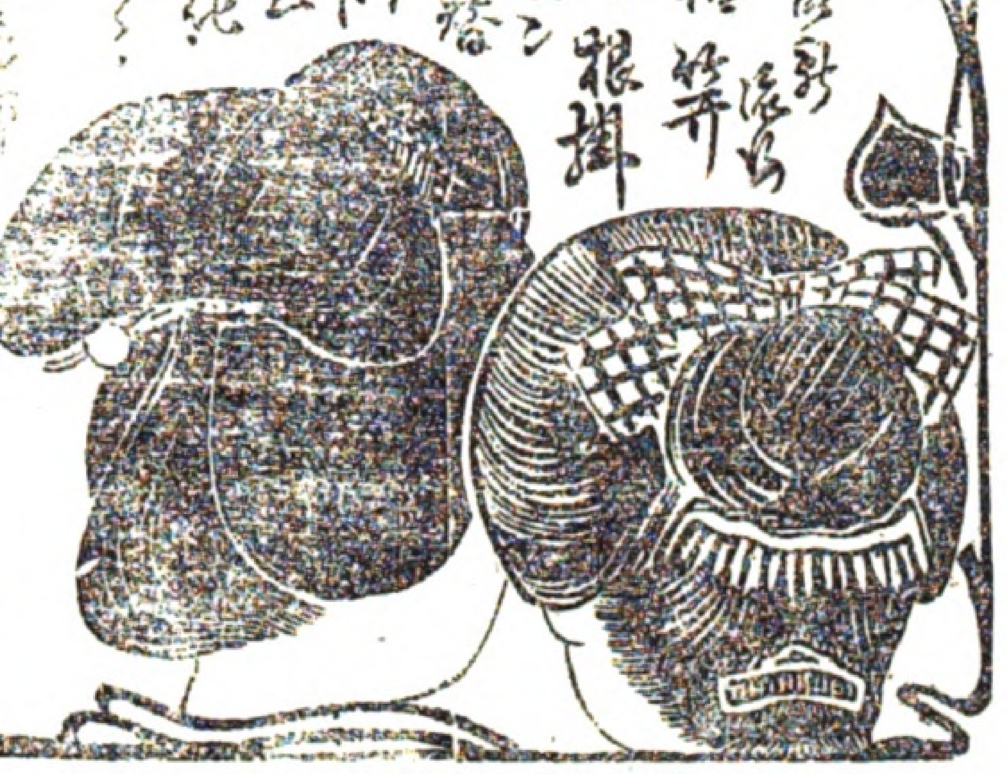
芳香御肌洗粉ワツセル

◎此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價　最上　金七拾五錢　五拾錢　參拾錢　拾七錢　普通　金貳拾錢　六錢　三錢

東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七一二

洗濯用ワツセル日本一手販賣元　御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元　二友商會



最新流行　櫛笄　根掛　髪飾　花簪　リボン　ダイヤ　コム　造花

小間物商　三ツ井屋　神田區須田町十八番地　電話本局二〇七六番

支店（新橋勸工場博品館内　神田神保町東明館内）

第五回内國勸業博覽會　貳等銅牌

都足袋粋乃友

◎本品ハ曩ニ農商務省ニ出願シテ登錄商標專用ヲ得タル物ナリ

◎本品ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粋士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ

◎本品ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フコトナシ

◎本品ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ具合適良ニシテ縫目ノ破綻スル虞ナシ

◎本品ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上勘ナカラザル效力ヲ有セリ

夏用單衣　清涼足袋

◎本品ハ曩ニ特許局ニ出願シテ登錄商標專用權ヲ得タルモノナリ

◎本品ハ要局ノ外ハ單衣ニシテ底ハ中部ニ氣孔ヲ穿チタル新意匠品ニシテ盛夏ノ際ニハ最モ適切ナルモノナリ

◎本品ハ材料最モ優逸ニシテ且完全ニ清涼的能力ヲ具備セルヲ以テ啻ニ經濟ニ適スル耳ナラス衛生上ニモ絶大ノ效力ヲ有セリ

◎本品ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ穿チ具合ノ可良ハ一點疑ノ存スルナシ

白羽二重　絹羽二重　絹足袋

◎本品ハ高等服裝ノ際ニハ最モ必要ニシテ殊ニ交際場裏且ハ婚姻ノ盛典ヲ擧ゲラルル時杯ニハ本品ニ賴ラサレハ華美ナ盛裝ニ缺點ノ譏アル耳ナラズ貴重ナル衣服ノ裾ヲ傷フコトアル可シ

三重足袋君ケ盃

◎本品ハ曩ニ特許局ニ出願シテ登錄商標專用權ヲ得タルモノニシテ名稱ノ如ク甲三重底三重ナリ優ニ貳足ノ耐力ヲ有ス

龜屋

◎遠國御需要者ノ御便利ヲ圖リ東京郵便區外十足以上ノモノニ限リ御送金ナクモ送料下店負擔ニテ上代金引替小包ニテ發送可仕候故ニ地方人士ハ坐ナカラ東京名産ヲ無運賃ニテ購入スルコヲ得ラルヽナリ

三越呉服店裁縫所

日本橋區室町三丁目　龜屋足袋店　宮内清兵衛

電話本局千七百十二番　電信略號（ヤメカ）或（カ）

ムスク香水

（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）

○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり

東京日本橋區本石町四丁目　ホーサン石鹼本舗　本舗　松澤常吉（電話本局百四拾五番）

日本第一の大勸業場

（本場の特色）

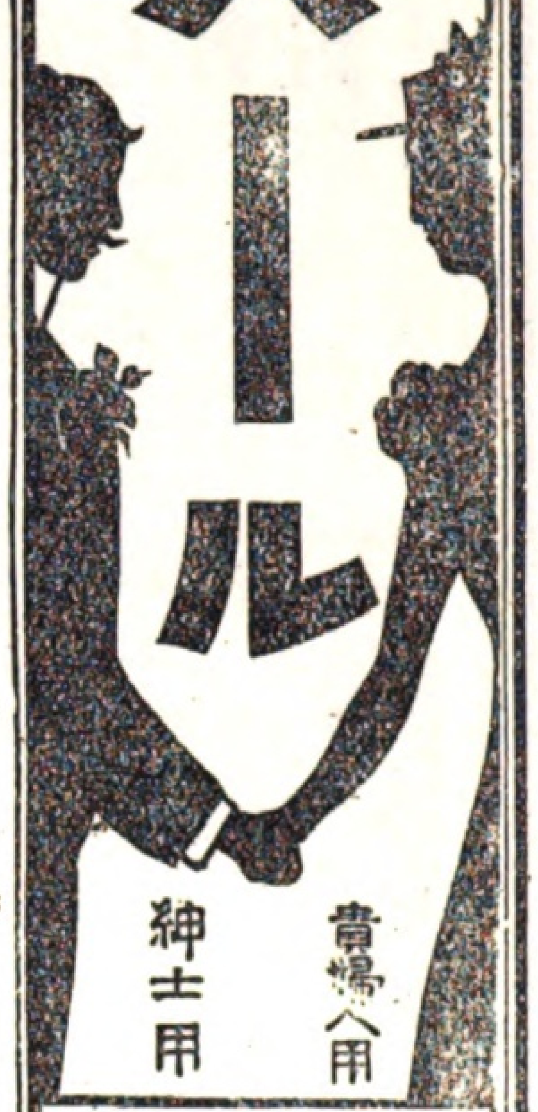
◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市内無賃にて配達致します

◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

東京新橋角　電話新橋（一六五二　二三六二）

帝國博品館

煉香油　パール



貴婦人用　紳士用

歐米化粧品輸入商　東京濱町一　電浪一一一〇　平尾方店　香油ゴールドオイル發賣元

（ラクダ印麝香石鹸）

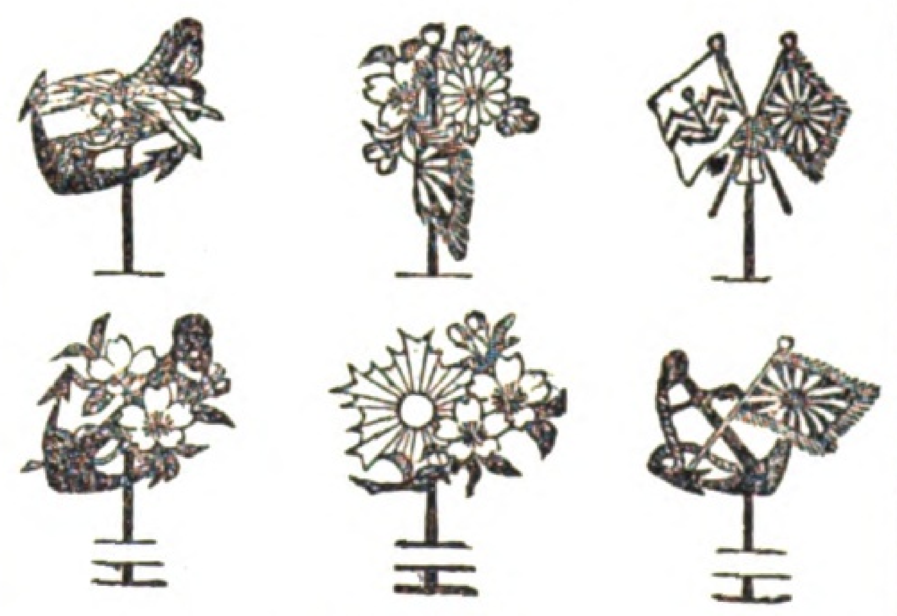
ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に愛すべきミレより手拭タオルハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は馥郁としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる一大特點を有す

（定價大形廿錢　小形拾錢）〔熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり〕

○近來類似品有「ラクダ」印に御注意

東京本石町三丁目十八番地　芳香商標同區　井上太兵衛

戰勝紀念ピン



銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

定價　純銀製　一個　金三十五錢以上　餘は御好み次第迅速調製可仕候

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮内省御用達　玉寶堂　東京市下谷區池の端仲町　電話下谷　特九六五番　一二四四番

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外　弘報堂
神田千代田町　博報堂
京橋區南紺屋町　一星社
京橋區南鍋町　秀逸堂
日本橋區上槙町　萬年社
日本橋區箱崎町　春風舍
京橋區宗十郎町　正路喜社
京橋區日吉町　帝國通信社
同區瀬左衛門町　京華社支店
同區南鍋町　廣告社

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　東京麹町　愛國婦人發行所　印刷所秀英舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN